

令和5年第8回小金井市教育委員会定例会議事日程

令和5年7月25日（火）

午後1時30分開会

開催日時	令和5年7月25日	開会 閉会	1時30分 5時45分	
場 所	本庁舎3階 第一会議室			
出席委員	教 育 長 教育長職務 代理者	大熊 雅士 浅野 智彦	委 員 委 員 委 員	小山田佳代 佐島 規 穂坂 英明
欠席委員				
教科書採 択選定調 査委員会	校 長 (委員長)	増田 亮	校 長 (副委員長)	諏訪伊都子
説明のた め出席し た者の職 氏 名	学校教育部長 生涯学習部長 庶務課長 学務課長 指導室長 統括指導主事	大津 雅利 梅原啓太郎 鈴木 功 本木 直明 加藤 治紀 田村 忍	指導主事 指導主事 図書館長 公民館長 庶務課庶務係長	西尾 崇 向井隆一郎 内田 雄介 鈴木 遵矢 小平 文洋
調 製				
傍聴者 人 数	31名			

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	議案第 29 号	令和 6 年度使用小学校教科用図書の採択について
第 3	議案第 30 号	小金井市体育館条例施行規則の一部を改正する規則
第 4	議案第 31 号	小金井市栗山公園健康運動センター条例施行規則の一部を改正する規則
第 5	議案第 32 号	小金井市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
第 6	協 議 第 1 号	公民館緑分館野外調理場の検討状況について
第 7	報 告 事 項	1 その他
		2 今後の日程

また、5月31日から6月22日までの期間、図書館本館、図書館貫井北分室、小金井市教職員研修センターにおいて、市民向け教科書展示会を行いました。その際に寄せられた御意見、御感想について、資料としての公開が可能と確認されたものについて、本日、資料として配付をしております。

説明は以上となります。

大熊教育長

それでは最初に、今回の教科書選定に当たり、教育委員会としての視点を確認したいと思います。

学習指導要領では、授業改善の視点として、主体的・対話的で深い学びが示されております。これは、先行き不透明な社会でも、自分らしく生きることができる力をつけるためでもあります。

そのためには、何を学ぶかだけでなく、どのように学ぶかも重視した授業、子供たちが見通しを持って粘り強く取り組む力を身につけられる授業、周りの人たちとともに考え、学び、新しい発見や豊かな発想を生む授業、自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業などが求められています。

具体的には、子供たち一人一人が自分の考えを持ち、質の高い対話に向かうこと、主体性を持ち、自ら課題を見つけ、時にICT環境を効果的に活用しながら、個別最適な学びや協働的な学びに向かうことなどが必要となります。

このような視点を基にして、主体的・対話的で深い学びにつながる授業が展開できる教科書、よりよい学びを実現できる教科書を選定してまいりたいと考えます。このことは、校長会やさきの調査研究委員会の先生方にも伝えてきました。

このような視点でよろしいでしょうか。

これまでも何回か、このことは伝えてきました。

それでは、選定調査委員長、副委員長に私どもが質問し、お答えをいただいて理解を深め、協議をしていきたいと思っております。協議につきましては、全部で13の教科書を選定する必要がありますので、効率よく進めていけるよう御協力をお願いいたします。

なお、私どもも選定調査資料を事前に拝見し、各自で教科書見本を基に研究をしていることから、教科書各社ごとの説明については、報告書全てではなく、特徴的なことに絞って報告していただきたいと思います。と思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、選定調査委員長より、報告に関する説明をお願いいたします。

増田委員長

選定調査委員長です。

教科書会社ごとに御報告いたしますが、配付した選定調査資料のうち、主体的・対話的で深い学びの実現を中心に、特徴的な内容に絞って報告いたします。

まず、選定調査委員会保護者代表からの意見を報告いたします。

保護者代表からは、学校の先生たちが指導しやすい教科書を選んでほしい、学校の先生たちから見て、子供たちの心の成長に寄り添った内容や活動になっていると思われる教科書を選んでほしい、子供たちが教科書を読んで、分かったという感覚が得られるような教科書を選んでほしい、キャラクターが多過ぎると煩雑で分かりづらい、1冊だと登下校の際に重くなるので、上下巻に分かれた分冊のほうがよいなどの意見をいただきました。

説明は以上です。

大熊教育長

ありがとうございました。

私も、保護者からの代表の意見は、本当にこのとおりであるというふうに実感いたしました。委員の皆様、いかがですか。

小山田委員

同感です。

大熊教育長

同感ですよね。このことを重視して、しっかりと調べていきたいと思えます。

このことに関して言うと、保護者が一番期待しているところは、今の本市の子供たちに合った教科書、それが一番だと思います。そのところを一つの視点として決めていきたいと思えますので、どうかよろしく願いいたします。

それでは、国語から入っていきたいと思えます。国語の説明をお願いいたします。

増田委員長

国語の調査研究の報告をいたします。全3社になります。

東京書籍には、読み継がれている名作と現代的視点を書かれた作品などがバランスよく取り上げられている。教材の進め方が、見通

す、取り組む、振り返る、生かすと、段階的で分かりやすいなどの特徴がありました。

教育出版には、多様性への理解、防災、国際協調や平和、資料活用など、多岐にわたるテーマを扱っている。6年生の話す、聞くでは、対話を柱とし、考えの多様性に触れられるなどの特徴がありました。

光村図書には、問いを持つ、目標を振り返るという一貫した学習の流れと、捉える、深める、まとめる、広げるという学習の仕方が明示されている。巻末の言葉の宝箱や図を使って考えようなどは、語彙力、思考力を高めるだけでなく、個の学びにも対応しており、学習の個別最適化を進めることができるなどの特徴がありました。

報告は以上です。

大熊教育長 それでは、質問のある方、お願いいたします。

佐島委員 主体的・対話的で深い学びの実現という点において、特徴のある教科書はありましたか。

増田委員長 東京書籍は全ての教材が、見通す、取り組む、振り返るといった統一した学習の流れになっているため、学習の仕方が身につけやすいという特徴があります。

光村図書は、扱われている教材が、他教科とも関連づけて横断的に学べるものが多く、深い学びにつなげることができます。また、問いを持つ、目標を振り返るという一貫した学習の流れと、捉える、深める、まとめる、広げるという学習の仕方が載っているため、見通しを持って学習に取り組むことができるというものでございます。

佐島委員 はい、結構です。

大熊教育長 ほかにございますか。

小山田委員 小金井市の学校では、読書活動が非常に盛んだと思いますが、読書活動の充実との関係はどのようになっているのでしょうか。

増田委員長 全ての教科書に、様々な取扱いが見られます。

その中でも、東京書籍は、本との出会いや向き合い方を載せています。また、光村図書は、単元の学習と関連する図書を紹介しています。

これらのことにより、本を読みたくなる気持ちを高める、醸成することができることが期待できるものでございます。

大熊教育長 その点ですよね。ここのところだけ、光村図書は本を紹介している部分が非常に多いということですよね。

増田委員長 はい。

大熊教育長 分かりました。
ほかにございますか。質問がなければ協議に入りたいと思いますが、いかがでしょうか。

浅野教育長 児童の学習のしやすさということを考えますと、自分が今、どこ
職務代理者 を学習しているのかという流れのようなことをきちんと見通すことができる、とてもいいかなと思います。

今、増田校長の御報告にもありましたように、東京書籍と光村図書ですかね、流れが統一的に示されていますので、自分が今、どこを学習しているのかということが見通しやすくて、これは非常にいいポイントかなというふうに思いました。

大熊教育長 なるほど。ほかにございますか。

佐島委員 主体的・対話的で深い学びのほかに、個別最適な学びや協働的な学びということも重要な視点ではないかなというふうに思っています。

選定調査資料を見させていただきましたが、光村図書には、巻末の言葉の宝箱や図を使って考えようなどは、語彙力、思考力を高めるだけでなく、個の学びにも対応しており、学習の個別最適化を進めることができるとあります。個別最適な学びを進められる教科書と言えらると思います。

今、映していただけますかね。

大熊教育長 これですよね。

佐島委員 はい、そういうことですね。

大熊教育長 これが一つの教科書、光村図書の特徴になっているなという感じはします。
ほかにございますか。

穂坂委員 学びやすさという点では、教科書の巻頭の工夫も大事だと思います。選定調査資料によりますと、教育出版は、巻頭にその学年の学習する内容がまとめられており、見通しを持った学習に対して有用ではないか。

光村図書は、巻頭のページに、学習内容や既に習ったという注意事項がまとめられておりまして、学習がつながるという意味では、よろしいのかなと思っております。児童が学びやすい、学びに向かいやすい、そういう工夫がなされているのではないかと考えます。

また、学びの特徴という点では、光村図書は、児童に対して創意工夫を求めるような感じがいたしました。例えば、6年生のパンフレットを作るというか、「おすすめパンフレットを作ろう」という事項がありますけれども、このようなプレゼンテーションの技術というか勉強というのは、我々の子供の頃には全くなくて、むしろ私としては、現代のお子さんたちが羨ましいかなと思っております。

大熊教育長 「おすすめパンフレットを作ろう」ということに関して言うと、光村図書はこんな感じになっていて、実は、ほかの会社のパンフレットは、調べてみたら、教育出版や東京書籍もパンフレットに関しての記載はあるんですが、内容が違っているんですね。

東京書籍は、SDGsの内容をパンフレットにしようと言っています。

教育出版は、パネルディスカッションでどんな課題を見つけたかということに関して、パンフレットを作ろうと言っています。

もう一つは、光村図書は、皆さんは映画や音楽、本などによって元気になったり感動したりしたことはありませんか、そんな気持ちになれることもパンフレットにまとめて、友達に推薦しましょうと記載されています。そんな気持ちになれるものもとされており、こ

ここで自分自身で選んでおります。

このときに、私ども、先ほど言いましたけれども、本市の子供にとってどの教材がふさわしいかというのを僕らは選定していきたいと思いますが、その点で言いますと、本市の子供たちは、ハチドリプロジェクトを既にやっていますので、SDGsのことについてパンフレットを作ろうということにはならないと思いますし、もう本市ではやっています。

それからもう一つ、これも確かに分かりますが、パネルディスカッションの内容を報告するということになると、このよしあしによってパンフレットは変わってしまいますよね。

そうなってくると、本市の子供たちにとっては、光村図書の課題の出し方は適切なのではないかというふうに考えます。いかがでしょうか。

穂坂委員 そうですね。何遍も言いますけれども、本当に子供たちが創意工夫をして作り出すという目的では、これが合っているのではないかと考えております。

大熊教育長 ほかにございませんか。

小山田委員 やはり光村図書のように、自分が薦めたいものを自分で選んでパンフレットにするというところで、主体的であります。また、個別最適化というところでも、個人個人で決めて作るということでは、小金井市の子供たちに合っているのではないかと思います。

大熊教育長 ほかによろしいですか。いいですか。

佐島委員 はい。

大熊教育長 小山田委員、いいですか。何でもあったらどうぞ。

小山田委員 それでは、ちょっと別な視点ですが、国語では、児童が興味を持つような教材が掲載されているということも大切だと思います。

選定調査資料を見ますと、光村図書は、著名人が執筆している説明文が多く、関心が呼び起こされやすい、物語文にSF作品やミス

テリー作品などを取り上げ、児童の興味を引き出している、表現力が豊かで優れた文学作品を扱っていて、言葉のよさを感じ取れる教材が多いなど、取り上げている教材のよさが感じられます。

教科書展示会のアンケートからも、1年生の中川李枝子さん作の「くじらぐも」、また、6年生では、宮沢賢治の「やまなし」などの教材がよいという意見が寄せられております。

また、小金井市では現在、光村図書の教科書を使用していますが、学校の先生たちが今までに取り扱ったことがある教材が多いということでは、教材研究がしやすいのではないかと思います。

大熊教育長

私のほうから、もう1点。私どもが国語と言った場合には、どちらかという、国語の教科書を読むということを中心にやっていたよね。

今の教科書は、話す、聞くということと、書くということが重要な視点になっていて、今までと、全く違うということではないですが、大きく変わってきているかなというのが一つの特徴であり、それは、どの教科書もしっかりと押さえていると思います。

先ほどの内容では、今まで説明文という形になっていたのが、パンフレットをつくろうとなっておりまして。

今、小山田委員が言われたように、読む教材に関しては、今までしっかりとした光村図書を使っていて、有名な著作も長い間、使われているものもあるので、一つ、いいのではないかと。また、先ほどは書くということを見ましたが、話す、聞くという観点で見ると、実はもう一つ、プレゼンという新しいジャンルがあります。

そこを見ていくと、図書は、みんなで楽しく過ごすためにとということで、自分たちで話し合いをしましょうということが書いてあります。

ここで私が一番びっくりしたことが、最後のページに、伝えるににくいことを伝えるという部分があるんですよ。伝えるににくいところを伝えるというのは、まさにアサーションというのですかね。子供たちとのコミュニケーションをしっかり取っていくときに、ただ自分の言っていることだけを言うのではなくて、どうやったら相手にとって優しい言い方になるかということも、しっかりとここに出されていて、いわゆる話す、聞くという、新しい視点が示されているというふうに思います。

他のところを見てみますと、教育出版は、パネルディスカッションになっています。これもとても重要な視点だと思いますが、先ほどの相手の立場に立ったというところは、見当たりません。

それから、もう一つの東京書籍を見ますと、ここはまさにプレゼンテーションになっています。自分の言いたいことを伝えるということでは、これも非常にいい資料ですが、先ほどの、本市の子供たちにとって今、何が必要かという視点を考えてみると、伝えにくいことを伝えるということが教材の一つになっている、光村図書がいいのではないかなというふうに私自身は思いました。

私の意見も言わせていただいたところで、そのほか御意見はございませんか。よろしいですか。

今までの意見を整理させていただきます。学習の進め方が分かりやすく示されていて個別最適な学びを進めることができるという調査選定委員会の意見、それから、学びに向かいやすい工夫があり、児童が興味を持ちやすく、今までも使っていた教科書で、先生方も使いやすいという面もあるということ、これからの子供たちに身につけさせたい書く、話すという内容で、今の子供たちに適切な教材として考えることができる光村図書がよいという意見が出ておりますが、国語の教科書は、現行に引き続き、光村図書でよろしいでしょうか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 ありがとうございます。それでは、国語の教科書は光村図書に決定したいと思います。

今回はこんな感じで進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

浅野教育長 結構です。
職務代理者

大熊教育長 とにかく本市の子供たちのためにというのを、ひとつ視点にして考えていただくといいかなというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

次に、書写の説明をお願いいたします。

- 諏訪副委員長 選定調査副委員長の諏訪です。
書写の調査研究の報告をします。全3社になります。
東京書籍では、止め、払いなどを細かく学習できるようになっています。新聞や手紙の書き方など、他教科とのつながりを感じる内容となっているなどの特徴がありました。
教育出版には、児童が書き方をイメージしやすい、オノマトペを積極的に活用している、手紙や新聞だけでなく、ノートの書き方など、他教科の学習に生かせる内容になっているなどの特徴がありました。
光村図書には、写真が多数掲載されており、鉛筆や筆の持ち方、傾きなどを視覚的に確認できる、硬筆や毛筆を初めて学ぶ学年が興味を持てるような導入となっているなどの特徴がありました。
報告は以上です。
- 大熊教育長 それでは、質問のある方、お願いいたします。
- 浅野教育長 諏訪先生、御報告をどうもありがとうございました。
職務代理者 書くということが授業時間内だけにとどまっていると、やはり書写としては限界があると思います。日常生活とのつながりという点では、教科書はどんな工夫がなされていますでしょうか。
- 諏訪副委員長 3社とも、様々な工夫が見られます。
例えば東京書籍では、6年生の教科書の最後に、1年から6年で学習する「書写のかぎ」が巻末にあり、これまでに学習した内容を日常生活に還元できる内容となっています。
教育出版では、手紙や新聞だけでなく、社会、理科のノートの書き方などを掲載しており、他教科とのつながりがある内容となっています。
光村図書は、総合的な学習の時間のSDGsの学習につなげやすい教材や、東日本大震災のときの手書きの新聞など、手書きのよさを伝えられるような教材が掲載されています。
- 浅野教育長 ありがとうございます。
職務代理者 東日本大震災の記載ですね、5年生ですね。

大熊教育長 何年生ですか。

浅野教育長 光村図書の5年生の12ページです。
職務代理者

大熊教育長 こちらですね。実際に避難所にも行きましたが、こういう新聞が当時たくさん掲載されていましたよね。
ほかにございますか。

穂坂委員 書写の授業に使用する教材や教具の取扱いについて、特徴のある教科書はありましたでしょうか。

諏訪副委員長 東京書籍には、毛筆の用具の準備などが詳しく丁寧に載せてあります。
光村図書には、実際に字を書いている際の写真が多数掲載されており、鉛筆や筆の持ち方、傾きなどを視覚的に確認することができます。さらに、準備や後片づけに関しても、分かりやすく提示しています。

大熊教育長 大体同じぐらい、同じ感じですよ。一つ一つ見ると、大きな違いはないのかなという感じですね。

穂坂委員 ありがとうございます。医学的な見地から言わせていただくと、やはり姿勢というのも大事かと思えます。

大熊教育長 その点では、どの教科書もしっかりと、伸ばすと書いてありますね。最近はややできないんですよ。こういうことがしっかり押さえられることも大事かなと思います。

ほかにございますか。質問はよろしいですか。

それでは協議に入りたいと思います。御意見をお願いいたします。

佐島委員 児童は小学校に入ってから、文字を書くという学習を始めるわけですが、児童が文字を正しく整えて書けるようになるということが、とても大切だというふうに思います。

選定調査資料によると、教育出版では、児童が書き方をイメージしやすい、オノマトペを積極的に活用している。光村図書では、書き方について、オノマトペ、唱え言葉、擬音語、擬態語を用いて、分かりやすく説明しているというふうにあります。

児童が文字を書くための機能を習得しやすくなると思います。

大熊教育長 ここですよね。「すうっと」とび出すというところです。

佐島委員 そうですね。「すうっと」。

大熊教育長 「ぐうっ」とかというところですよ。

佐島委員 子供がイメージしやすくなりますよね。

大熊教育長 最近の子供たちは、「ぐうっ」という言葉が、そのような言葉一つ一つで字をしっかりと書くようになる。私たちがそのような視点で見えていなかったということもありますが、選定資料でそのように書かれていることを学び、子どもにとってやりやすいことなんだなというのがよく分かりました。

穂坂委員 また繰り返しになってしまいますが、文字を書くときの筆記用具の持ち方や姿勢、それが大事だと思います。

選定調査資料によると、東京書籍では、筆の持ち方が実際の大ききで掲載されているようです。光村図書では、写真が多数掲載されており、鉛筆や筆の持ち方、傾きとかを視覚的に確認できるということで、かなり児童の手本になるのではないかと思います。

大熊教育長 一番しっかり大きく書いてあるのは光村図書です。この場面ですね。

鉛筆の持ち方が書かれている場面です。鉛筆をつまんで持ち上げてという、どうやって持ったらいいかということが、段階を追ってしっかり書いてある。この辺は特筆すべきところかなと思いました。

小山田委員 硬筆や毛筆というものに興味を持たせる工夫というのも必要だと思います。

選定調査資料によりますと、光村図書には、硬筆や毛筆を初めて学ぶ学年が興味を持てるような導入となっている。1年生の書写体操が魅力的で、姿勢も整えやすいとあります。

3年生からが大體、毛筆になりますが、最初の導入の書き方、また、1年生には、光村図書は書写体操というものがある、最初の導入として、まずこういうところから入ろうみたいなことで、導入段階で、苦手意識を持たないようにという工夫がされていると思います。

大熊教育長 姿勢を正しくしようということをちゃんと教えてあげるということは、今の子供たちにとっても重要であり、こういう内容が書かれる時代となり、取り上げていかなくてはいけないと思いました。

浅野教育長 先ほどの東日本大震災の時の手書き新聞も含めて、SDGs教育についてもかなり意識した作りに、光村図書の教科書はなっていて、総合的学習の時間等にもつながっていく構成になっているかなというところがいいと思いました。

それとは別に、私が少し面白いなと思ったのが、有名人のサインが教材として載っていることです。それは6年生の44ページですね。狙いがこういうふうに書いてあるんです。文字には書く人によって異なる味わいがあります。あなたの文字からは何を感じますかと。

ただ書くだけではなくて、書くことを通して、あるいは自分が書いた文字を通して、いろんなことを考えさせる教材になっていて、これはとても面白いなというふうに思いました。いい教材だなと考えております。

大熊教育長 これは少し斬新ですよ。

浅野教育長 面白いですよ。

大熊教育長 いわゆる書写というと、同じ文字を書かなければならない、同じような字を書かなくてはいけないということ、そういう意味では、言いにくいですが、没個性的になってしまう面がある。

しかし、最近、学校を回ってみると、自由な字を書いてみる書写を取り入れている学校があります。その中で、一人一人違う私の文字という形で、それぞれの良さがある、その人らしさがあるというのは、いいなと思いました。皆さんどうですか。

こういう教材は光村図書だけですよね。他の書籍にもいいところはありますが、特筆すべきところという点では、もう1ページありましたね。

浅野教育長
職務代理者

こちらは、自分の字を振り返るというものです。

大熊教育長

そうですね。自分の書いた字です。

他に御意見はよろしいですか。

それでは、意見を整理していくと、文字を正しく整えて書くための技能を身につけやすい。硬筆や毛筆の興味を持たせる工夫が見られる。それから先ほどあった、手紙の良さ等も感じられる。それから、書写でありながら、先ほど指摘していただいた、ここですね。

自分らしさ、本市の教育のスローガンの一つに、一人一人のその子らしさを最大限伸ばすチーム学校の創造というのがありまして、一人一人のその子らしさを伸ばしていくということになると、こういう教材が一つあるかないかだけでも、先生方の意識は変わるのではないかなと思います。

同じ、自分のサインであるとか自分の字の書き方みたいなことに自信を持って取り組んでいけるようになるということで、オノマトペを取り入れていたり、他の教科書にも様々な工夫があり、先ほど言われていた姿勢の点は、甲乙つけ難いところがあります。

しかし、国語と同様に、書写についても私の文字というような内容が取り入れられている現行の光村図書にしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

よろしいですか。では、私ども、自分らしさをさらに伸ばすという視点で、光村図書を選定していただいたことを先生方にも伝えながら、授業を進めていただきたいと思いますので、どうぞよろしく

お願いいたします。

それでは、書写の教科書は光村図書に決定いたします。

次に、社会の説明をお願いいたします。

増田委員長

選定委員長です。社会の調査研究の報告をします。

全3社になります。

東京書籍には、ポイントになる写真や資料を大きく取り上げていて、本文とのつながりが分かりやすい。つかむ、調べる、まとめる、広げるなど、学習過程を分かりやすく示された構成になっているなどの特徴がありました。

教育出版には、地域教材として、小金井市でもこの土日に行われた阿波踊りや、6年生の林間学校で行く野辺山高原を取り上げている。タブレット型コンピューターを生かそうというページが見開きで設定されており、教師にとっても、児童にとっても、学習の幅を広げる提案になっているなどの特徴がありました。

日本文教出版には、地域教材として、4年生、風水害では、東京都の被害や取組を取り上げている。資料の多いページでは、①を見ると何々、③の地図では何々といったように、分かりやすく示しているなどの特徴がありました。

報告は以上です。

大熊教育長

それでは、質問のある方、どうぞ。

佐島委員

社会科における主体的・対話的で深い学びの実現という点において、特徴のある教科書はありますか。

増田委員長

3社とも様々な特徴が見られます。

東京書籍では、見開きで大きな資料で提示することで、児童から幅広い意見が出せるようにして、主体的・対話的な学習に取り組みやすい構成になっています。

教育出版では、各学年の冒頭で、つかむ、調べる、まとめる、次の学習や暮らしにつなげるといった学習の流れを紹介しています。

日本文教出版では、歴史学者から歴史を学ぶ楽しさや意義を手紙で伝えることで、各自が歴史学習から何を学ぶのか、主体的に考えられる構成になっています。

大熊教育長 なるほど。他にございますか。

小山田委員 小金井市や東京都を取り上げている各校の環境教育や、ハチドリプロジェクトの取組と関連するような内容を取り上げているなど、児童が社会の課題を自分事化して考えられるような教材を取り上げているといった、特徴のある教科書はありますか。

増田委員長 3社とも様々な特徴が見られます。

日本文教出版では、各学年の教科書の末尾にSDGsの目標シートがあるため、児童がSDGsの17の目標やハチドリプロジェクトを意識しながら、学習に取り組むことができるようになっています。

教育出版では、4年生で、ごみはどこへと水はどこからの学習の後、ごみと水について学んだことを暮らしに役立てようと、発展的な学習のページを設定しているため、自分たちにできることを考えられるような構成になっています。

東京書籍では、水はどこからで、ビオトープを取り上げており、環境への意識を高める構成になっています。

大熊教育長 どの教科書も優れているということですね。

増田委員長 はい。

大熊教育長 そういうことでございます。どこも優れている教科書から選んでいかななくてはいけないというのは非常に難しいですね。

そのほか質問はございますか。よろしいですか。

それでは協議に入ります。御意見をお願いいたします。

佐島委員 主体的・対話的で深い学びを実現するためには、分かりやすい学習過程が大事だと思います。

選定調査資料によると、東京書籍では、つかむ、調べる、まとめる、広げる、教育出版では、つかむ、調べる、まとめる、つなげるといった形で、分かりやすく示されていて、よいと思います。

また、他の学習や生活との関連も重要であるというふうに考える

と、東京書籍の「広げる」は、次の学習への関連、教育出版の「つなげる」は、日常や今までとの関連になって、いいのではないかなと思いました。

大熊教育長

なるほど。少し差が出てきたかなという感じはします。
ほかにございますか。

浅野教育長
職務代理者

私は、結論から言うと、どれもよくできているなと思ったんですが、東京書籍が一段、児童に深く物を考えさせる構成になっているなという印象を持ちました。

2つポイントがありますが、1つは、最初に示された観点の主體的にという部分です。自分から考えるということですが、例えば、5年生の地理的分野の上巻の教科書です。

同じくほかの会社も比較したほうがいいので、5年生の一番最初の単元の最初に、つかむと書いてあって、ちょっと後ろの方は見えにくいかもしれないのですが、こう書いてあります。「地球の様子や地図を見て話し合い、世界の中の日本について、学習問題を作りましょう」となっています。学習問題を自分たちで作っていく。つまり、課題を自ら見いだしたり、作り上げていくということです。

同じように、5年生の、例えば日本文教出版で言うと、ちょっとページ数は分からないんですが、最初に、でかい地球の図が描かれていて、その前にもあるのですが、ここでいろんな質問文を出されています。質問文は書かただけになっていて、次のページに行くと、問題がもう設定されてしまっているんですね。つまり、問題を作るのではなくて、与えられた問題に答えていこうという作りになっています。

同じく、教育出版、こちらは5年生の8ページです。実はこの問題、学習課題を作るということが別のところに書かれているのですが、具体的に単元が始まると、問題が設定されてしまっている。

なので、自分たちでまず問題を作って、それに取り組んでいくという形で構成されている点で、東京書籍は一段、より良く構成されているなと思います。

もう1点が、今、増田校長から御報告がありました、資料の選定報告についてです。

大熊教育長 ここで、確認させてください。今のことについては、具体的にもうちょっと、どうなっているだろうということは、もう問いになっているということの理解でよろしいでしょうか。

浅野教育長
職務代理者 そうですね、はい。

大熊教育長 けれども、これも、何を調べなければいけないかという問いになってしまっている。

しかし、東京書籍は、同じところに、世の中の日本について、学習問題を作りましようとなっており、それで教材を見て、自分たちで学習問題を作るという構成になっています。これが主体的であるということでもいいですか。

浅野教育長 はい、そういうことです。

職務代理者 続きますして、同じように、今、選定報告にありました、資料が精選されているということです。

どこでもいいですが、中世のところで、武士政権の成立のところで比較してみたいと思います。まず、どの教科書も、武家の暮らし方を最初に大きな絵で示した上で、貴族の生活と何が違うかという問いを立てるわけです。

その場合に、文教出版については親切過ぎるというのでしょうか。これは答えが載っているのです。文教出版の隣のページを見てみると、上が武士で、下が貴族だと思いますが、答えがもう書いてあります。

小学校の先生としては、図を見せて、前の単元でやった貴族の暮らしぶりと比較して、どこが違うかなというふうに言うべきところ、答えが出てしまっていて、これは親切過ぎて、逆に使いにくいだろうと思います。さらに…。

大熊教育長 少し確認させてください。文教出版は、問題を出しているにもかかわらず、その答えが教科書に書いてあるということです。つまり、武士はどのような暮らしをしていたのだろうと問いている一方で、生活が違って、門が違って、どう違うのか、すぐに答えが書いてあるので、分かってしまいますよね。

浅野教育長
職務代理者

そういうことです。

さらに、続けて見ていきますと、必ずこの単元に載っている写真があります。それは平治の乱で、京都の街が戦場になっている図です。これはどの教科書にも載っていますが、東京書籍の該当ページを示していただけませんか。

他の教科書と比べて違うのは、他の教科書ではクライマックス的な扱いになっている、街が燃えている絵、それが小さくなっていて、行進している絵が大きくなっているんですよ。そのキャプションが面白くて、実は前のページの図版と対応しています。

前のページの図版では、こういうキャプションがついています。武士が貴族の護衛をしている、武士は貴族の下働きをしているという趣旨のコメントがついています。それに対して、平治の乱のもう一枚の絵のほうでは、武士が行進しているのを貴族が遠巻きに見守っている構図になっています。

だから、この単元の大きなポイントは、貴族政権から武士政権がいかにか自立し、離脱していくかということで、それを図で示しているのです。これは東京書籍だけで、非常に資料の使い方がいいなというふうに思います。

さらに、他にもいろいろあって、細かいことを言うと、義経についての記述が全く違って、名前しか出てこないものと、それから、兄に討たれたと書かれているものもあります。東京書籍は、兄に討たれた理由が書かれていて、コラムの形に箱囲いになっていますね。

それは要するに、朝廷と幕府の対立の間でということが説明されております。その果てに承久の乱が起こるわけですが、承久の乱と御成敗式目について、本文中で明示的に言及しているのは東京書籍だけで、要するに、関東で起こった小さな武家政権が、貴族の支配から離脱して、最終的には西方にまで支配を及ぼしていくというプロセスが一貫して描かれていて、それが資料によって、非常にきちんと提示されております。

これはつまり、出来事を個々に知るとのことよりも、歴史の流れを大きくつかむという構えを児童に呼び起こすだろうなと思います。だから、3社ともよく構成されておりますが、私は、児童に物を考えさせるという意味では、東京書籍がとてつもないなとまずは

思いました。

問題は、他の資料もそうですが、実は情報量がすごく多くて、例えば、鎌倉の地図というのが3社とも切り通しの地図が載っています。これを見ると、会社によって個数が違っていると思います。1番少ない書籍では、2つぐらいしか切り通しが入っていないと思います。一方、東京書籍は1番多く、なぜか朝夷奈だけがない教科書もあるんですけど、つまり、これに象徴されるように情報量がすごく多くて、私の唯一懸念するところがあるとしたら、児童にとって難し過ぎるかもしれないということです。

しかし、私も学校訪問等で、市内小学校の授業を随分見せていただきましたが、私個人の感触にすぎませんが、小金井市の児童は、この内容でも十分についていけるのではないかなと思っておりません。仮にそうであるならば、東京書籍が一番良いと思います。

大熊教育長

なるほど。よく分かりました。
他にございませんか。

穂坂委員

書画カメラで示していただきたいのですが、選定資料にある東京書籍の6年生の資料となります。「縄文のむらから古墳のくにへ」という単元で、見開きですごい情報量が多いんですが、左側と右側での違いが、一目瞭然というわけではないんですが、見やすいのかなと思います。

2ページにわたって示されておまして、パノラマではないですが、見るほうとしては、すごいインパクトがあるかなと思いました。

大熊教育長

実はこの教科書を、前回は選ぶときに、これが一つの視点になったかなというふうに考えております。歴史の勉強をするときに一番最初は細かく勉強しますが、縄文時代と弥生時代の違いについてということだけを比較しようとする、このほうが見やすいですね。

このように2つが比較できる教科書、こちら側とこちら側を比較するという教科書、このことだけで、2つには随分差があります。

もう一つは、米作りのページですが、こちらをご覧くださいと、米作りといいながら、どこに田んぼがあるか見つけられません。一生懸命見ましたが、ありませんでした。しかし、よく見ると遠くのほうにありました。しかし、こちらの書籍には、ここにありました。

米作りといっても、取り上げ方からこの程度だったのかなという気もしますが、2つを見比べられた方が違いを見つけることはできるだろうと思います。

穂坂委員、そういうことですよ。

穂坂委員 はい。

大熊教育長 だから、子供たちが一つの絵を見て、縄文時代と弥生時代をしっかりと頭に入れるということに関して言うと、違いが明らかになるのかなという感じはいたしますが、いかがでしょうか。

ほかにございますか。

小山田委員 教科書の中身ではありませんが、この3社のうち東京書籍だけが、5年生、6年生が上下分冊になっています。

冒頭に保護者代表の委員から、分冊のほうがよいのではという意見が出ていたと思いますが、その観点からは、教科書の軽量化が図られて、持ち運びも非常によいのではないかと、児童の負担も少なくなるのではないかと思いました。

分冊になっていたのは、東京書籍だけでした。

大熊教育長 そうですね。他の書籍でも調べてみると、6年生の社会科でもそうですが、問題の出し方、貴族の世の中のところで、藤原道長ら貴族がどのような暮らしをしていたのか話し合い、学習問題を作りましょうという学習問題の作り方をしているのが東京書籍でした。これはまさに主体的な学習問題の作り方になっております。

しかし、同じところに、都の貴族はどのような暮らしをしていたのだろうか、調べたいと思って貰う必要があるのに、初めから教科書に問いが書いてあるのです。自分の学習問題ではなくて、ということですよ。これを調べなさいという形になってしまっています。

もう一つも、貴族はどのような暮らしをしていたのかという疑問を持ってもらいたいわけですよ。「調べてみたい」という気持ちになってほしいのに、「調べましょう」になっているところは、やっぱり1番違いがあります。

それから、先ほどの穂坂委員の一枚絵にしても、子供たちに想像しやすい。また、2冊分冊になっているということを考えますと、

がはっきりしており、山脈や土地の高低差などの様子をイメージしやすくなっています。

帝国書院の地図は、シンプルな色遣いで、地名が読み取りやすくなっています。

大熊教育長 この点はかなり違います。さっきの東京書籍と比べてもらうと、東京都周辺、さっきの小金井公園があるところですが、字ばかりに見えてしまいます。字ばかりに見えるので、少し見にくい印象があります。高低差が見えるという点では見やすいのかもしれないのですが、秩父山地あたりの山の色は、このような感じに記載されています。

もう一つのほうは、秩父山地が見えにくいですね。

そうすると、どちらのほうが東京都の様子を表しているか。東京都だけですが、多少見やすさが違うかなという感じがします。

ほかにありますか。

浅野教育長 地図帳は授業で活用することが主になるかと思いますが、その点
職務代理者 で、何か特徴はありますか。

増田委員長 東京書籍では、世界の統計に使用言語を載せているほかに、縄文時代から現代までの年表と歴史上の出来事が、世界地図と結びつくような構成になっています。

帝国書院では、SDGsの特集を見開き2ページで載せており、ハチドリプロジェクトと関連した活用ができるようになっております。

浅野教育長 ありがとうございます。
職務代理者

大熊教育長 そのほか質問はございませんか。
それでは、これより協議に入ります。御意見をお願いいたします。

佐島委員 東京書籍には、世界の使用言語、世界の動物、世界の料理など、多岐にわたって数多くの資料が掲載されているなというふうに感じました。地図帳としてだけでなく、資料集のような活用もできる

のではないかなと思いました。

大熊教育長 その点はありますよね。
 ほかにございますか。

穂坂委員 地図の見やすさという点では、帝国書院だと思います。
 先ほどの色の使い方とか、フォントの工夫だとか文字の大きさを考えると、あまりにもいっぱい、字が多すぎて、まちの様子がかがえないような印象があります。私としては、再三言うように、色合い及びフォント、文字の大きさ、ましてや小金井桜が出ているということを考えると、勝手な意見ですが、帝国書院のほうがよろしいかなと思います。

大熊教育長 ありがとうございます。
 ほかにございますか。お願いします。

浅野教育長
職務代理者 帝国書院の地図のほうには、遊びがあるといいますか、所々に、地図マスターへの道というクイズコーナーが入っていて、例えば、66の関東地方南部のところをみてみますと、東京ディズニーランドの絵を探してみようとか、そういった興味を引きつけるような工夫が、遊びをあえて入れることによって、なされているというふうに思いました。ここはとても面白いなと思いました。

 加えて、66ページの関東地方南部というタイトルの地図ですが、東京書籍の44ページの地図と一緒に見ていただきです。これはほぼ同じ地図です。

 東京書籍のほうのタイトルがどうなっているかということ、東京都とその周りです。では、帝国書院のほうの東京都とその周りがどこにあるかということ、71ページの地図がそうです。

 つまり、東京書籍が東京都とその周辺と考えているものは、帝国書院的に言えば、関東南部です。帝国書院では、東京都とその周辺は、実は71ページに大きく載っている地図で、解像度を上げて、小金井桜を載せることが可能になっているという仕組みです。

 ですので、関東地方に住む児童にとっては、これは大きなメリットがあるだろうなと思います。

 加えて、実はどちらの会社も、歴史に関する資料を載せているの

ですが、帝国書院のほうは、江戸時代の地図を随所に載せています。上方と江戸との関係といったものを載せていて、歴史資料としても使い勝手がいいのではないかと思います。

大熊教育長 ありがとうございます。

浅野教育長 例えば56ページがそうです。
職務代理者

大熊教育長 56ページの下ですね。こちらも歴史上のものがみんな載っているのですね。

穂坂委員 今の江戸川区は、ほとんど埋立地ですよ。

浅野教育長 そうですね。その地図も、69ページ、70ページ辺りに昔の様子がわかります。
職務代理者

大熊教育長 昔がこのようになっていたということがよく分かりますね。ほかにございますか。

小山田委員 重複になるかもしれませんが、帝国書院は東京都とその周りのページが、全部で3ページの見開きになっていますが、この中にはもちろん、小金井桜のかわいいイラストと小金井公園があるので、全国で使用されている地図に自分たちの身近なものが載っているということを知るといことは、とても子供たちにはいいことだと思いますし、東京都のほうも、広く書かれています。また、一つ一つのイラストがとてもかわいく、子供には入りやすいと思います。

 こういう場所にこんなイラストがあって、こういう特産物とか施設があるのだなというのが、すごく分かりやすいと思いました。

大熊教育長 そうですね。地図というのは、自分たちの場所がどういうふうなところにあって、そこからつながっていくということが重要で、自分たちの位置がはっきり分かるということが、一つ重要だろうと思います。

 もう一つ、その点では、小金井桜があるというのは大きな視点だ

と思いますし、東京都まで視点を広げてみると、昔の東京都の地図は、まさに東京都が発展してきた様子をじかに実感することもできるというふうに思います。

それから、これがしっかり見えるということは、他の地図も実は同じようなことが言えます。本当の在り方、使い方等で、地図全体が見やすいことなんかも一つの特徴に挙げられる帝国書院がよいと、意見が多く出されております。

したがって、地図の教科書は、現行に引き続き、帝国書院でよろしいでしょうか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

それでは、地図の教科書は帝国書院に決定いたします。
算数が終わりましたら、少し休憩いたしましょうね。
次に、算数の説明をお願いいたします。

諏訪副委員長

それでは、算数の調査研究の報告をします。全6社になります。東京書籍には、問題、目当て、手がかり、まとめ、練習問題という1時間の学習の流れが、マークとともに分かりやすく示されている。巻末の補充の問題を含め、全体的に練習問題の量が多くあり、児童の学習状況や習得の早さに応じて問題量を調整することができるなどの特色がありました。

大日本図書には、問題、目当て、発見、どのように考えるとよいかの流れができています。巻末の補充の問題を含め、全体的に練習問題の量が多くあるなどの特色がありました。

学校図書には、できるようになったこと、学びを生かそう、振り返ろうの流れができています。色を効果的に使われており、見やすい、分かりやすいなどの特色があります。

教育出版には、問題をつかみ考える、話し合いを通して考えを広げる、まとめて次につなげるという、1時間の学習の流れができています。全体的に余白が多く、1ページに多くの情報を入れていないので見やすいなどの特徴があります。

啓林館には、「ふりかえろう」、「やってみよう」のページがあることで、振り返りや活用の例として扱うことができる。単元の途中で、しっかりと練習問題を設定されているため、自分の理解度を確

かめやすいなどの特色がありました。

日本文教出版には、「どんな問題かな」から「ふり返ろう」までの一連の流れがしっかりできている。唯一B5サイズなので、教科書を開いたときにスペースを取らないところがよいなどの特色がありました。

報告は以上になります。

大熊教育長 それでは、質問のある方はお願いいたします。

佐島委員 単元の構成や課題解決の提示の工夫として、特徴のある教科書はありましたか。

諏訪副委員長 東京書籍は、問題に対する課題がはっきりと示されていて、単元の初めに、既習事項を復習できるようになっています。

学校図書も同じように、問題に対する課題がはっきりと示されていて、単元の終末の「ふりかえろう」で、学習の振り返りが分かりやすくできるようになっています。

大熊教育長 どこまで勉強していたかということがしっかり書いてあって、その後、この数が大きくなったらどうなるだろうという形で、ここへ持ってきています。他の書籍は、こんなに明確にはなっていないです。

今、ここを出した理由は、4年生の算数で、一番引かかるところは筆算のところ。これは1ページ目に、こういう問題があって、いきなりこの問題になってしまいます。

最初で説明がありますが、筆算の仕方を考えようからいきなりこの問題になってしまうのです。今まで学習してきたことを振り返って確認し、ここが変わったらどうなるだろうということが明確に示されている教科書であるということは確認できています。

実はこれも、前の選定教科書をやるときの大きな視点になっていたと思っています。

小山田委員 練習問題の扱いということでは、特徴のある教科書はありましたでしょうか。

諏訪副委員長 全ての教科書会社において、必要な練習問題が適切に掲載されています。

ですが、その中でも、東京書籍は、習熟度別の問題がちょうどよい分量で掲載されており、巻末の補充の問題で、児童の学習状況や習得の早さに応じて、問題量を調整できるようになっています。

また、学校図書巻末にある、もっと算数というページは、補充問題や発展問題が充実しているため、自身の習熟度や学習集団の進度に合わせて活用することができ、個別最適化された学習が可能であると考えます。

大熊教育長 ほかに質問はございませんか。よろしいですか。

それでは、これより協議に入ります。御意見をお願いいたします。

浅野教育長
職務代理者 私自身は算数がとても苦手だったので、発言するのにややためらいを感じますが、私が苦手だった算数ですけど、物の見方・考え方ということで言うと、算数における固有の見方や考え方をどう提示して児童に伝えていくかというところがポイントなのかなと思っています。

それで、今、御説明を受けて、なるほどと思ったのが、例えば、そういう考え方を提示する上で、東京書籍の説明では、扱いやすいという言葉が使われていたかと思います。それから、啓林館は、見通しが持ちやすいという表現が使われていて、私のように苦手だった児童にとっても、とても大切なことなのかなというふうに感じました。

大熊教育長 先ほどの社会科の視点でもう一回、浅野委員に質問したいのですが、問題を出すという点で、社会科での問題と同じことが起きていました。これは小学校4年生の一桁で割る割り算の導入の言葉、「一桁で割る割り算、筆算をしましょう」というページです。

教育出版は、表現が少し違い「割り算の仕方を工夫しよう」です。さっきの言い方だと、どちらがいいですかね。それから、「割り算の仕方を考えよう」、「どんな計算になるかな。」、「工夫して計算の仕方を考えよう。」とそれぞれ違います。

つまり、子供が主体的に問題を解決しようとしたときに、どの問いかけが子供にとって、より主体的に問題解決する言葉になっている

るか。そういう言葉が今回、主体的・対話的で深い学びを実現する本市の教育を進めるための教科書になるのか考えますと、「計算しましょう」とか、「割り算の仕方を考えよう」とか「割り算の仕方の工夫をしよう」は主体的とは言にくいです。一つだけ違うのは「どんな計算になるかな。」ですね。どう思われますか。

浅野教育長
職務代理者

そうです。さっきと同じで、最初に問いが与えられている形で、「割り算をしましょう」とか「割り算の仕方を考えよう」というふうに、最初に問題が与えられていて、今、我々が求めている教育は、問いの一手手前のところで主体性を発揮するということでしょうから、まずは、そもそも割り算の手前、どんな計算になるのかなというのが一番根源的な問いになるのだろうと感じます。

大熊教育長

こちらがあつてから、こちらになっていますよね。ここのところに違いがあつて、それが一番最初から、割り算をしましょうという形になっているのと、教科書がちょっと違うかなという感じはしました。

ちなみにこれが、今、使っている東京書籍です。
ほかにありますか。

穂坂委員

保護者委員から、キャラクターが多過ぎると煩雑で分かりづらいという御意見がありました。

その点からすると、東京書籍は図や資料がシンプルかなと思いますし、日本文教出版は構成がシンプルで、すっきりして読みやすい。選定調査資料にありますように、そのような御報告がありました。

ここでどうこうというよりも、そういうシンプルさというのが、数学、算数には必要なのかなと感じております。

大熊教育長

さっきのところで、そのことも言えていて、キャラクターが多くて、言葉がいっぱいあると、どれを読んでもいいか分からなくなってしまふのですね。

言葉一つ一つを取っていけば、確かにいいですが、算数が苦手な子にとって、これを一個一個読み解くというのは、難しいのかなと思います。

それに比べると、ここは一発です。何々の数が大きくなると計算

はどうなるかなと。こういう形のほうが分かりやすいのかな。

それと同じ作り方、組み方をしているのは教育出版ですね。これは割とシンプルに出来上がっている。こういうことだというふうに思いました。

ほかにございますか。

小山田委員 算数の学習ということでは、練習問題の扱いということも非常に重要だと思います。

先ほど質問させていただいてお答えいただきました、特徴があると言われた東京書籍や学校図書の練習問題は、児童一人一人の習熟度に応じて取り組む問題が調整できるということでは、個別最適な学びの実現という意味で、よいと思います。

それから、分冊の話が先ほどもありましたが、東京書籍と学校図書は、5年生まで分冊になっています。

東京書籍は1年生に、最初に、「はじめよう！さんすう」という、A4判の大きいものが別についています。

学校図書は、6年生に別冊で、「中学校へのかけ橋」みたいな別冊がついているというところでは、この2社はいいのかなと思いました。

大熊教育長 分冊の視点も大事ですね。

ほかにございますか。

佐島委員 どの教科書も、学習の流れをしっかりと示しているというふうに思いましたが、選定調査資料を見させていただきますと、東京書籍には、問題、目当て、手がかり、まとめ、練習問題という1時間の学習の流れが、マークとともに分かりやすく示されています。唯一、分かりやすいという表現が出ているので、このことは重要ではないかなと思いました。

また、算数は、前に学習したことを手がかりにして学んでいくというような教科の特徴がありますので、東京書籍は、前回の学びはここまで、これからの学びはここからという点は明確に示されているところがいいのではないかなと思いました。

大熊教育長 これまでやったところが、ここまで学んできたけど、この数字を

こう変えたらどうなるかなというところで子供たちの問いが始まって、学習に入っていくというところは、一つ違いが明確になっているという感じはしました。

そのほか御意見はございませんか。

それでは、私もこれまで不登校の子供たちと関わっていて、一番つまづいてしまうところは、小学校4年生の筆算のところ、そのところがしっかりと子供たちに分かりやすく、先ほど指摘もあり、選定資料にもありましたけど、分かりやすいという言葉で紹介されている東京書籍が、本市の子供たちの実態に合っているのではないかなと思います。

先ほども漫画等を示させていただきましたけれども、構成がシンプルで、キャラクターの言葉を追っていかないと内容が分からないということは一か所もなく、一つの大きな質問が示されて、子供たちが、先生の問いかけにしっかりと向き合うことができるというふうに考えました。

その点では、今までも何度か名前が出ていますが、この教科書の中では、東京書籍がよいという意見が多く出されております。算数の教科書は、現行に引き続き、東京書籍でよろしいでしょうか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 よろしいですか。納得できて、教科書を選べたかなというふうに思います。それでは、算数の教科書は東京書籍に決定いたしました。ちょうど午後3時になりましたので、10分間の休憩にしたいと思います。よろしくお願いします。

休憩 午後3時00分

再開 午後3時10分

大熊教育長 それでは、時間になりましたので再開させていただきます。次に、理科の説明をお願いいたします。

増田委員長 理科の調査研究の報告をいたします。全5社になります。東京書籍には、4年生では早い時期に、動物の体のつくりと運動の単元を配置することで、自分の体という最も身近な題材から関心

を持つことができるようにしている。「たしかめよう」に掲載されている基礎基本の問題と応用問題のバランスが適切であるなどの特徴がありました。

大日本図書には、単元の導入が見開きページで統一されていて、児童の気づきを引き出しやすい。6年生では、植物の成長を待つ間に別の単元、人や動物の体のつくりと働きが配置されているなどの特徴がありました。

学校図書には、単元の初めの「できるようになりたい」では、その単元で身につける力が分かりやすく示されている。エネルギー領域の単元、5年生、振り子が学年初めに配列され、実験を意識しやすい単元構成になっているなどの特徴がありました。

教育出版には、巻頭の「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」では、国語の学習と関連し、学習の場面ごとに、理科で大切にしたい言葉や話型を交えながら、言語面での思考表現を支援している。4年生の水に関する学習では、物の温度と体積から水の姿の変化、そして、水の行方となっています。6年生の生物領域、人やほかの動物の体、そこから植物の体になっているなど、関連性のある単元が連続する構成になっているなどの特徴がありました。

啓林館には、単元末の「ふり返ろうまとめノート」では、学習したことが1ページで分かりやすくまとめられている。4年生では、生命、地球の領域を連続して学習できる単元構成となっているなどの特徴がありました。

報告は以上です。

大熊教育長 それでは、質問のある方、お願いいたします。

佐島委員 主体的・対話的で深い学びの実現という点において、特徴のある教科書はありますか。

増田委員長 全ての教科書で様々な工夫が見られます。

特に教育出版では、巻頭の「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」において、国語で学んだ力を生かせるようにしています。これらの結果から考えると、何々と言えるとといった話型のほかに、比べる、関係づける、見通しを持つ、振り返るときに活用できる話型が複数示されているので、対話や協働的な学びに役立てることがで

きています。

大熊教育長 ほかにございますか。

小山田委員 環境教育やSDGs、ハチドリプロジェクトなどとの関連という点では、特徴のある教科書はございますか。

増田委員長 はい、ございます。
学校図書は、裏表紙にSDGsのアイコンが大きく掲載されているので、目次と関連づけられるようになっています。

大熊教育長 これですね。

増田委員長 そうです。教育出版は、巻頭に見開きで、SDGsの内容が掲載されています。巻末にも、SDGsとの関わりという項目があるだけでなく、6年生の巻末のSDGsミニ図鑑では、より詳しく調べることができるようになっています。

大熊教育長 なるほど。随分内容が入っているということですね。
ほかにございますか。質問はよろしいですか。
では、なければ協議に入りたいと思います。

穂坂委員 選定調査資料によると、学校図書には、巻末ノートのまとめ方、実験器具の扱い方、記録や調べ方などが見やすくまとめられていて、教育出版に関しては、裏表紙に、理科の安全の手引とまとめて印刷されています。巻頭にノートの取り方が示され、単元内には、観察カードやノートの結果の記載例が充実していると記載されております。
学習への取り組みやすさという点では、重要ではないかと思えます。

大熊教育長 なるほど。ありがとうございます。
ほかにございませんか。

浅野教育長 単元を配置するという点に関しては、各社とも工夫が見られるの

職務代理者 ですが、ざっと見た感じでは、教育出版と啓林館でしょうか、関連する単元が近いところに置かれていて、連続して学習しやすい仕様になっているのかなと思いました。

そういうふうにすると頭にも入りやすいですし、いい工夫かなというふうに思います。

大熊教育長 いわゆる物理と植物というのは連続しているということですね。

浅野教育長 そうということです。生物は生物で。
職務代理者

大熊教育長 生物は生物でね。その辺は、昔はばらばらだったのですが、今回のやつは、より主体的な学びという感じでは、単元の順番が少し変わったなという、一つの特徴かなと思います。

ほかにございますか。

小山田委員 学習につながりを持たせるという先ほどのお話も、非常に大切なことだと思いますが、つながりを持たせるということだけではなくて、学習したことを生かそうという視点も大切だと思います。

そのような点から考えますと、先ほどのSDGsとの関連性は、東京書籍のほうで出ていますけれども、非常に重要だと思います。

あと、学校図書と教育出版の、やはりSDGsの取扱いというのは、非常によい内容だと言えると思います。中でも教育出版の、先ほどありましたが、SDGsのミニ図鑑は、いろいろな課題を持って自分で主体的に学んでいくという点からも、活用しやすいと思います。

大熊教育長 SDGsというと、SDGsには人権問題と環境問題が2つあって、理科の問題だけではないということはあるのですが、理科からのアプローチということでは、ハチドリプロジェクトという形で、気候非常事態宣言を発出した小金井市では今、ハチドリプロジェクトを推進していく観点からも、教科の内容としてしっかり押さえられることというのは重要だと思いますので、この辺は評価できる教科書ではないかなと思います。

ほかにございますか。

佐島委員

学習したことを生かすという点では、他の教科との関連や様々な生活場面との関連が重要だというふうに思います。

先ほどの報告にもありましたけれども、教育出版では、国語の学習との関連が見られます。また、生活場面との関連という点では、選定調査資料によりますと、教育出版には、単元の導入のページに学習のつながりの項目があって、つながりのある学習内容や様々な生活の場面との関連づけがされていると記載されています。今、映していただいていますね。

さらに、教育出版は単元の導入のところで、学習内容に興味を持たせるような写真を掲載をしています。

6年生のてこのところをちょっと映していただいてよろしいでしょうか。これは非常に目を引くようなものだなというふうに思いました。やはり命につながるような防災とか、右上のほうでは、お祭り、生活につながっていくというようなところで、非常に興味を引くものがある。

他の教科書と比べてみると分かるのですが、他の教科書だと、実用てことかが、すぐ示されています。

大熊教育長

これが今、言われているように、てこをうまく使う、子供たちはてこを分かっているわけではないので、このような道具を使うことによって、実は命を救うことができるというような導入ができると思うのです。

でも、これは、先ほども言うように、重いものを持ち上げてみましょうという話になっているので、題が示されている。これだったら、どんな工夫をすればいいかしっかり学べぶことで、命を助けられるかもしれないという問いを立てることはできるかもしれない。こちらの教材は、てこを学びましょうということですね。

こちらの教材も面白いと思うのですが、少し分かりにくいところがあって、このような形になっていて、重さが重くなっているということは分かるんですけど、ちょっと命との関係からすると弱いかなという感じがします。

これは先ほどと同じ感じですね。同じような導入ができるかなと思います。

この辺は難しいですが、重いものを持ち上げるときには、上のよ

うに長い棒を使って、ものを持ち上げることがあります。こういう言い方、一本の棒をうまく使うと、重いものでも楽に持ち上げることができます。どのようにするとより楽に持ち上げることができるでしょうか。調べる条件に着目して考えていきましょう。

何かこれは、やらされている感じが、少しあります。

佐島委員 そうですね。

大熊教育長 これも、同じ防災ですが、下の写真のように棒を1点で支え、力を加えるものを持ち上げたり動かしたりする仕組みをてこといいますと、初めから言ってしまうところがあって、てこの勉強をしましょうという気になるところが、違いがあると思います。主体を考え、主体的な活動を考えると、佐島委員はどれがいいですか。

佐島委員 主体的な学びということ言うと、児童がまず学習内容に興味・関心を持つということがすごく大切で、そういう点から、導入のところの写真の提示であるとか教材の提示というのは、すごく大切ではないかなというふうに思います。

あと、先ほど算数のところでも話しましたが、理科においても以前の学習とのつながりとか、あるいは生活とのつながりというのは、すごく大切なところだと思いますので、そういう部分を意識しているという点で、教育出版がいいのかなというふうに思いました。

大熊教育長 教育出版は特筆すると、ここなんですよね。学習のつながりというのがしっかりあって、ゴムの力、振り子、てこ、それから、中学の力の働きという形で連続していて、こういうものが一連の流れになっているというのを示してあるのはこの教科書だけという形になると思います。

ほかにございますか。

ということで、先ほどの話があったように、自分たちの生活をよりよくしていこうという観点からすると、巻頭の写真等が生活と非常に密接に結びつけられていて、そこから自分たちで主体的に問いを立てて、それを調べてみたいというふうになるためには、やはり魅力的な教材が必要だと思います。

今回、ICTを導入することによって、様々な調べ学習では、い

いわゆるコンピューターを使って学習することは容易になってきたと思います。そういう意味では、教科書の存在自体がこれまでと少し違っているのかなど。

どんなところで違っているのかなと考えると、教科書が学びの羅針盤になる。一番最初に何を示すかということで、子供たちは調べたり、実験したりすることになるので、学びに入っていくための一番のきっかけ、生活と学びのきっかけをどういうふうにプロデュースするかというのが、実は大きな視点になるのではないか。

その点では、理科の教科書を、ほかのところも比べてみても、実はそういう差というのは出てきている。教科書が新たに学びの羅針盤になって、生活から問いを立てるということの構成がうまくできているのは、教育出版ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、今までのような理由で、単元の導入の写真で子供たちの興味・関心を示しやすい、それから、他の単元とのつながりも明確になっている、教育出版がよいという意見が多く出されておりますが、理科の教科書は教育出版でよろしいでしょうか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 それでは、理科の教科書は教育出版に決定いたします。
次に、生活の説明をお願いします。

諏訪副委員長 それでは、生活の調査研究の報告をします。全6社になります。
東京書籍には、見つける、比べる、例えるなどの学習指導要領に載っている言葉で説明している、安全面に配慮した記述が多く、活動前に指導したり、児童に意識させたりしやすいなどの特徴がありました。

大日本図書には、写真が大きく、人の表情や虫の細かい行動まで理解できる、栽培のページが多く、児童が見通しを持って活動しやすいなどの特徴がありました。

学校図書には、「ものしりノート」のページがあり、児童が興味を持って活動できてよい、児童のつぶやきの例が、次の学習につながるキーワードになっているなどの特徴がありました。

教育出版には、児童が調べる、まとめる、発表するときの手段や方法が紹介されていて分かりやすい、約束やヒントが示されていて

分かりやすいなどの特徴がありました。

光村図書には、ヨシタケシンスケさんのイラストがあり、児童にとって親しみやすい、また、巻末の辞典が取り外せて、硬い紙質なので、校外でも持ち出して活用できるなどの特徴がありました。

啓林館には、季節に沿って単元が配列されている、生き物の単元では昆虫の写真が大きくて分かりやすい、おもちゃ作りの説明が分かりやすいなどの特色がありました。

報告は以上です。

大熊教育長 それでは、質問のある方、お願いいたします。

小山田委員 スタートカリキュラムということになると思いますが、そういったところの視点や、1年生から使う教科書ということでの配慮や工夫として、何か特徴のある教科書はございましたでしょうか。

諏訪副委員長 東京書籍には、写真を多く取り入れているので、児童がイメージしやすい、色遣いが優しいといった特徴があります。

大日本図書には、教科書に書き込みができるようになっているという特色があります。

啓林館の教科書は、サイズが小さい、文字が少なくて見やすく、児童にとって扱いやすいといった特色があります。

大熊教育長 これを見ても、本当にそういう感じがしますよね。
ほかにございますか。

佐島委員 生活科の学習では、人との関わりというのも大切ですが、身近な人々や地域の人々との関わりを持たせることについて、特徴のある教科書はありますか。

諏訪副委員長 どの教科書会社も、地域の人々との関わりについては記載があります。

その中でも、光村図書には、保護者の皆様へというコメントがたくさんあり、家庭と連携しながら学習することができる、進めることができるといった特色がありました。

大熊教育長 保護者の人の視点もありますね。細かいところまでありがとうございます。
ざいます。

ほかに質問はございませんか。

なければ協議に入ります。

浅野教育長 生活科は、1、2年生でやる内容ですので、できれば、イメージ
職務代理者 豊かなといいますか、写真や絵を上手に活用して、イメージが作り
やすくなっているといいかなと思います。

選定資料のほうで確認しますと、東京書籍と大日本図書、光村図書、こちらはイメージの伝え方がとても上手であるというふうに報告されていて、ここは、私は重視すべきポイントかなというふうに思いました。

それからもう1点、教科書を見ていて、やや驚かされたところでもあるのですが、東京書籍の6年生の生活科の上巻の71ページに、発表のシーンがあって、よく見ると、パワーポイントかどうかは分からないんですが、コンピューターを使って、タブレットを使って発表しているんですね。

それで、私としては、ちょっと教科書のほうが先に進み過ぎなんじゃないのというふうに申し上げましたところ、幾人かの先生から、いや、本市は既にこうなっているのだと教えていただいた。教科書のほうが小金井市の教育に追いついてきたということなんだろうなというふうに思いました。

こういうこともきちんと押さえられているのは、いいことかなと感じています。

大熊教育長 ほかの教科書も実はありますが、本日と同じように書画カメラを使っている映像があって、完全にタブレットで発表しているのはこの教材だけなんです。それは確認しました。

ほかにございますか。

小山田委員 学習の取り組み方がどのように示されているのかということも、大切な視点だと思います。先ほどの報告にもありましたが、教育出版には、分かりやすく約束、ヒントを示しているのはとてもよいことだと思います。

また、選定調査資料を拝見しますと、東京書籍には、考える方法、

調べる方法などが書かれている。啓林館には、児童が発表したり、交流したりしている場面が絵で示されているとありますので、こういったところでは、学習の取り組みやすさにはつながっているのではないかと思います。

大熊教育長 考える方法とはどんな感じですか。何ページですか。

諏訪副委員長 例えば、上巻の東京書籍の75ページですね。

大熊教育長 75ページですね、約束ということがあったり、考える方向というところですかね。

諏訪副委員長 吹き出しで書いてあります。

大熊教育長 吹き出しの部分ですね、なるほど。東京書籍は、気をつけようと書いていなく、何に気をつければいいのかなどと書いてある。

この辺も特徴の一つなのでしょうね。普通だったら、みんなで約束を守りましょうと書かれていたのが、今度の教科書はそういう意味では、問いを投げかけるという点では、一つ面白い点かなと思います。

穂坂委員 児童が学習のまとめを行うときに、手本のようなものがあるとよいと思います。

選定調査資料によると、東京書籍には、初めに観察カードの書き方のページがあって、大日本図書にも、発見カードの例が適切に分かりやすく載っております。児童としては参考にできるかなと思います。

大熊教育長 どういうふうに書いたらいいかということ迷わず、子供たちが中身に専念できるということは、すごく重要なことだと思いますので、考えさせるところとこのように書いてごらんということを確認にするということは、大事かなと思いますね。

ほかにございますか。

佐島委員 今の視点とともに、表現ということも一つ大事ではないかなと思

ってしまして、低学年の児童の発達段階に応じているということが、生活科の教科書における表現で、大切かなと思っています。

学習にとって必要な表現というのは、低学年のうちからきちんと押さえていく必要があるので、その点では、選定調査資料を見せていただくと、東京書籍には、見つける、比べる、例えるなど、学習指導要領に載っている言葉で説明していると示されていますので、低学年のうちから自然と身につけられるというふうに思います。

また、先ほどから他の教科でもいろいろ出ている、主体性ということで言うと、上巻の秋の学習のところを、東京書籍とかほかの教科書もちょっと見せていただければというふうに思いますが、他の教科書会社では、ものづくり、おもちゃを作ろうとかと言って取り上げているところが多いんですけど、東京書籍ではどんな遊びができるかなという導入になっています。決められた、先生から言われたことをやるというのではなくて、どんなことができるかなというふうに子供たち自身が考えながら、主体的に学習に取り組んでいくという意味で、いい作りをしているのかなというふうに思います。

大熊教育長

ここはすごく特徴的なことだというふうに思いました。1年生ですよね。ここが遊んでいるところで、これから何ができるかというふうにこうやって考えるものというのは、ちょっと難しいかなと、言葉で説明することになってしまうので。

それから、秋と仲よし、これもそういう意味では、これがどうなっただろうというふうになるのは、頭の動かし方としてはいいかなと思います。

それから、秋は友達、これも、夏と違うところはどこだろう、どんな遊びができるかなと考えられます。

さっきの理科と同じようなところがあるのですが、このページが、子供たちの生活からつながっていて、どんな遊びをしたいかというところにつながっていくとしたら、本市の子供たちにとって、どの写真が一番いいかという話になってくるわけです。

見ていただきたいのですが、小金井市の子供たちは、この写真か、この写真か、この写真か、この写真か、この写真かということなんですけど、穂坂先生はどれがいいですか。

穂坂委員

小金井市に住んでいてこの風景を見たら、身近なところで思い浮

かべるのは小金井公園ですよ。

大熊教育長

何か穂坂委員の目がそういうふうに使っていた気がしました。これは小金井公園と言ってもいいですよ。つまり生活の中から、野川公園もこんな感じですよ。秋はこんな感じになりますからね。

いつも言っているのですが、秋を探そうではなくて、どんな遊びができるかなんて、この問いもなかなか秀逸だなと思うんですけど、いかがでしょうか。

今までのことを併せて考えると、やはり生活と、巻頭の写真、中身はそんなに大きく変わるわけではないのですが、子供たちが主体的に学習に取り組むためには、生活からの連続性ということを非常に重要視したいです。

そのときに、何々しなさいというようなことが書かれているのではなくて、何ができるかなという問いかけも、今の本市の子供たちには合っているのではないかなと思います。

よって生活の教科書は、東京書籍、これですね、生活と結びついていて、小金井公園をほうふつとさせる写真が掲載されている、東京書籍に決定したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

それでは、生活の教科書は東京書籍に決定いたします。

続いて、音楽の説明をお願いいたします。

増田委員長

音楽は、全2社になります。

教育出版には、4年生、79ページに小金井市の貫井雛子が載っていて、地域の伝統芸能に親しみを持ちやすい。それから、「音楽のもと」では、まとめが発達段階に応じた内容で、低・中学年はイラスト、高学年は図式化してあり、分かりやすいなどの特徴がありました。

教育芸術社には、単元名が左端に書かれ、音楽の要素、旋律、音色、音の重なりなどが右端に分かりやすく掲載されていて、配列が効果的である。日本の歌や最後のコーナーに、児童の興味を引く曲が掲載されていて、分量の調整ができるようになっているなどの特徴がありました。

報告は以上です。

大熊教育長 貫井囃子、本当に載っていますね。こんなに大きく載っているのですね。一つ特徴ですよ、小金井市らしさという点ではね。

それから、日本の歌や最後のところが特徴としてあるということでございます。

浅野教育長 今の御説明でも触れられていたかなと思うのですが、念のために職務代理人 確認させてください。

いわゆる主体的・対話的で深い学びという観点から見たときに、両社の教科書はどんな特徴がありますでしょうか。

増田委員長 教育出版は、巻頭の学習マップに学習内容がまとめられており、3年生以上では、学習の進め方も示されています。

また、「めざせ楽器名人」では、発達段階に合わせてスモールステップを踏んだ教材があり、楽しみながら技能を身につけられるという特徴があります。

教育芸術社は、巻頭の学習マップにおいて、歌う、演奏する、つくる、聴くを項目立てています。また、曲ごとに、見つける、考える、歌う、演奏する、つくるといったマークが示され、分かりやすくなっています。

浅野教育長 ありがとうございます。職務代理人

大熊教育長 悩ましいところですね。

佐島委員 小学校では、音楽の授業は専科の先生が授業をすることが多いと思いますが、学級数などの関係でも、3年生以上という学校が多いので、1、2年の先生など、音楽を専門としていない方が授業をする場合がありますが、音楽を専門としていない先生方でも指導しやすくなるような工夫など、ありますか。

増田委員長 教育出版では、巻末の楽器図鑑があり、写真を見開きで大きく示しています。

また、「音楽のもと」では、1年生では音階、2年生では音の長さや長さ比べなど、児童がイメージしやすく分かりやすい教材を示しています。

教育芸術社は、低学年で音楽づくりを多く扱うことで、楽しく音楽の技能を身につけることができるような工夫がされています。

1年生の鍵盤ハーモニカの導入では、見つけた音に丸をつける。3年生のリコーダーの導入では、伝言ゲームを取り入れるなど、興味・関心を高める工夫がされています。

大熊教育長

ここで、今の説明の中で、新しく入ってきたところだけ、少し紹介させていただくと、今までも私どもは、音づくり、音楽づくりという観点というのは、高学年でやっていましたが、あまりやっていたなかった低学年でもそういう内容を取り入れられています。このことは、自分たちが音楽に親しむということではとても重要なことで、さらに主体的ということ、言えることなのではないかなと思います。

その点では、そういうことを重視していくということは、一つ大事なことだと思っているので、少し頭に入れていただきたいなと思います。

ほかに質問はございませんか。

そんなことも含めて、協議に入りたいと思います。

穂坂委員

教育出版には、貫井囃子が出ているということで、全国的な教科書の中に、我々が住んでいる小金井市の話題が出ているというのは、すごく親しみやすく感じるのではないかなと思います。

大熊教育長

そうですね。それも確かに重要ですね。

もう一回、見せてください。こんなに大きく取り上げられているのです。これは重要な視点かなというふうに思っています。

ほかにありますか。

小山田委員

主体的・対話的で深い学びという点では、その実現性においては両社とも、巻頭に学習マップがあるのですが、その中でも、教育芸術社のほうが、歌う、演奏する、つくる、聴くといった項目の立て方ですとか、あと、見つける、考える、歌う、演奏する、つくと

いったマークが示されておりまして、また、教科書の展示会のアンケートの中でも、教育芸術社の学習マップが非常に分かりやすいという意見があり、音楽を楽しむということができないのではないかと思います。

ただ、左の單元も、書き方が、教育芸術社のほうが、ドレミと仲よくしようとか、言葉で書かれていて、それも非常に特徴的だと思いました。

大熊教育長

先ほどのやつも、そうですね。学習マップでこういう形になっていると、曲に合った歌い方とか掛け合いと重なり、響き合う歌声、音楽、パートの役割と、こうなっているじゃないですか。

こっちのほうの学習は、演奏する、歌う、聴く、つくるところがあるんですよね。

ここのところが大きな違いで、先ほどの佐島委員の指摘にもあったように、最初の1年生のところから、教育芸術社のほうが、つくるところというのが明確に出ているということは、ここで一つ特徴かなと思います。

浅野教育長
職務代理者

選定調査資料を拝見していて気がつかされたのですが、教育芸術社のほうは、右側のページに項目が記されています。旋律とか、和音の響きとか、リズムとか、フレーズとかですね。

それで、なるほどと思ったのは、つまり、ほかの教科とちょっと違う、音楽ならではの事情に、このやり方、これはいろんなことを思うのですが、いわゆるタグシステムなんだろうと思うんです。

だから、世代的にも若い人たちには、これは大分なじみやすいだろうと思います。例えばリズムについて言うと、ある段階でリズムを学んで、あとはもう学ばないということは、音楽ではないわけで、リズムも音色も全部、いろんなところで何度もやる形になるので、ほかの教科の、例えば英語とか数学で、ここではこれをやり、次にはこれをやりというふうに、ステップ式で示すというのがなかなか難しい構造を、音楽という教科は持っているんだろうと思います。

そうすると、ここでも、ここでも、ここでもリズムをやる、そういうところに全部、リズムのタグがついている。音色についても、ここでも音色をやる、ここでも音色をやる、そうしたら音色はいろ

いろなところにタグがついている。

だから、ステップ式の表示よりもタグ式の表示のほうが、音楽という教科内容にすごくふさわしいのだろうなと思います。これはすごくいい工夫だなと、選定資料を見て気づかされました。

大熊教育長 なるほど。

ほかにございますか。

佐島委員 音楽にかかわらず全ての学習で、子供たちの発達段階に即しているということがすごく重要ではないかなというふうに思っています。

そういう観点で選定調査資料を見させていただきますと、教育芸術社に掲載されている学習の課題について、かなり細かく記載しており、児童の発達段階に応じていて、系統性があり、バランスがよいと示されているので、これは大きな利点ではないかなと思います。

あと、先ほど質問させていただいた低学年の担任等での指導ということで、お答えをいただいた中で、教育芸術社は、楽しく音楽の技能を身につけることができるようにしているとか、あと、導入でゲームを取り入れるなどして、興味・関心を高める構成となっているというようなお答えがありました。

児童が主体的に楽しく取り組んでいくという点からも、いいのではないかなというふうに思いました。

大熊教育長 その他、御意見はございますか。

それでは、今までの意見を整理していきますと、音楽の授業ということを構成していくことを考えていくと、タグがついていることであるとか、楽しむということであるとか、つくるという音楽のことが示されていること、それから、選定資料の中にも、教材のバランスがよいというふうを示されていることから、それから、今、佐島委員が指摘していただいたように、発達段階に応じて、系統性も整っているというふうを示されていることから、大変言いにくいんですけども、貫井雛子の記載はないのですが、教育芸術社がよいという意見のほうが多いと思いますので、教育芸術社でよろしいでしょうか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 ちよっとどきどきしました。

小山田委員 貫井嚙子の記載がないのは悔しいですね。

大熊教育長 でも、総合的に考えると、教育芸術社のほうがよいというふうに
思います。選定資料にも書かれておりますので、そこを尊重して、
音楽の教科書は教育芸術社に決定いたします。

次に、図画工作の説明をお願いいたします。

諏訪副委員長 それでは、図画工作の調査研究の報告をします。

全2社になります。

開隆堂には、様々な題材、絵、工作、立体、造形遊び、鑑賞がバ
ランスよく掲載されている。高学年で同一素材、同一技法を繰り返
し取り上げているため、既習事項を生かして発展させることができ
るなどの特徴がありました。

日本文教出版には、後半になるにつれて活動が大きくなり、ダイ
ナミックになり、1年間で題材に取り組む順番を意識した構成にな
っています。低学年、中学年では、繰り返して同じ教具を扱う教材
があり、既習事項を生かすことができるなどの特徴がありました。

報告は以上です。

大熊教育長 ありがとうございます。

それでは、質問のある方、お願いいたします。

穂坂委員 図画工作の授業で、いろいろ用具を使うと思いますけれども、我々
も小さいときに、指の先を少し彫刻刀で切ってしまったという経験
がありますが、安全面に関しての、両社の教科書には工夫が見られ
ますでしょうか。

諏訪副委員長 はい。それぞれ記載はあります。

開隆堂では、道具の使い方について知るために、2次元コードから
動画を見ることができるよう工夫されています。

日本文教出版では、巻末に、材料と用具の引出しというコーナー

で、道具の使い方について、分かりやすく記述しています。

大熊教育長 なるほど。教科書で選ぶので、動画のほうは選定の中には入らないんですけど、でも、比較をすると、今、子供たちは簡単に動画も見られますので、これは動いたほうがいいのかないという気がしますけど、安全面に関してはこういう記述があるということで、よろしいですか。

ほかにございますか。

浅野教育長 図画工作は、言わば児童の主体性が一番問われる、作品づくりに
職務代理者 どれだけ積極的に関わるかというところで、主体性が物すごく問われる教科かなと思います。

その点で、興味とか関心とか意欲とか、児童から引き出すために、それぞれ工夫していると思いますが、何か挙げるとしたら、両社、どういうところがありますでしょうか。

諏訪副委員長 開隆堂の教科書は、資料が大きくて見やすいです。児童が取り組みやすい題材を掲載しています。全学年で、使用用具、振り返り、ほかの教科との関連について考える場面が、教科書の同じところに設定されているという工夫が見られます。

日本文教出版には、製作の過程が分かりやすく示されています。発達段階に応じて、魅力的な題材を掲載しているページもあり、これも教科書の同じ位置に、安全指導、片づけ方、目当てについて示してあるという工夫が見られました。

大熊教育長 なるほど。

ほかに質問はございますか。よろしいですか。

それでは、協議に入りたいと思います。御意見をお願いします。

穂坂委員 先ほどの質疑応答にもありましたが、道具の使い方の資料の掲示の仕方で、いろいろ違いがあるかと思いますが、日本文教出版の教科書に掲載されていることで、すぐに確認できるということもできます。その分、教科書のページが増えてしまうということもあるかと思っています。

ただ、小金井市の子供たちは、学習用の端末、ICTを使いこな

せているということで、2次元バーコードを使つての読み取りとかも、よい方法ではないかなと考えております

大熊教育長 その点では、しっかりと記述はされているということですね。
ほかにございますか。お願いします。

浅野教育長 さっきと同じで、私は小学校のときに、図画工作はとても苦手だ
職務代理者 ったので、発言に限界を覚えているわけですが、自分が小学校だ
ったときの教科書と比べると、やっぱり全然違うというか、すごく
きれいだし、大きいし、わくわくさせるなど。その点で、どちらも
すごく魅力的だなと思いながら教科書を見ていました。

強いて言うと、インパクトを受けたのが、開隆堂の3、4年生の
下巻で、「木々を見つめて」という18ページの単元について、自分
が小学校のときに絵を描いていたのとは全然、考え方が違うなど
いうのを実感させられました。

こういうふうを描いてしまつていいのだという、ある意味で、こ
う描かなければいけないみたいな固定観念からすごく自由に、今
の教科書は作られているなどということを教えてくれるような単元
だというふうに思いました。

大熊教育長 私もそれは少し衝撃的でした。

浅野教育長 色が青いですよね。
職務代理者

大熊教育長 そうです、青いのですよ。こちらの下のほうもすごいです、赤で
すよ。従来、木だったら茶色に塗ったじゃないですか。これだけ多
様に塗れるというのが教科書に載っているということ自体、子供た
ちの創造性を引き出しますよね。

それから、こちらの木も、こんなことを言つてはいけないのかも
しれないけど、これだったら安心して自分を表現できるなどという
気がします。でも、そのときに、こっち側の木の多様な塗り方も、
なかなかいい資料になっているなどというのは、ちょっと魅力を感じ
ました。

ほかの教科書も、ないわけではないですけど、ここまで、同じこ

とになるのかなと思うと、何かを描くということに関して言うと、3、4年生の中ではないですね。これが似ている感じのところになるのかなという気がしますけど、多様性からすると、こっちのほうがあるかなという感じはします。

ほかにございますか。

小山田委員 開隆堂についてですが、先ほども御説明がありましたが、選定資料、調査資料には、全学年で使用用具、振り返り、ほかの教科との関連について考える場面が同じように設定されると示されています。

教科書の下の方に、そういった片づけ、振り返り、併せて学ぼうというところで関連の教科ですとか、全部に入っており、いろいろな題材が変わっても同じような流れで作品づくりに取り組むことができると思います。授業の流れをきちんと確立するということができるので、先生の説明などの時間を減らしたり、また、作品づくりの時間の確保につながっていくのではないかと思います。

大熊教育長 このところですよ。

小山田委員 そうですね、下のところです。

大熊教育長 下のところですよ。やはり教科書全体を見てみると、他教科の関連であるとか他教材との関連というのが、かなり意識されて作られていることが、今、作られている教科書の特徴かなと思います。その点でも、こういうところの一つあるのかなというふうに思います。

ほかにございますか。

佐島委員 私も図工の授業をやったことがあります、たくさんの図工の授業を見てきましたが、図工の授業は結構、子供たちの製作する時間にすごい差が出るのですよね。じっくり構想を考えて丁寧に取り組む子もいれば、あれをやりたいと思ったら、ぱーっと集中して取り組んでいく子もいて、早く終わってしまうと、次に何をしたらいいのということもあるので、そういう意味で、発展的な学習に対応できるということも大切ではないかなと思っています。

選定調査資料にも、開隆堂のほうは、全学年とも、学習進度の速い児童向けに発展教材の紹介があるというふうに示されています。発展というのは、取り組まなくてもよい内容ですが、早く製作が終わってしまった児童とか、より高度なものに取り組んでみたいという児童にとっては、こういう内容があったほうが、自分らしさを伸ばす、そして、取り組んでいけるという点で、いいのではないかなというふうに思いました。

大熊教育長

そうですね。子供たちに発展教材を示されているというのは、一つ大きな視点かなというふうに思います。

ほかにございますか。

一つ、私自身も見ていて、ダイナミックさというか、一人の作品だけではなくていろんな作品を作ってみるというのが、展覧会でもあります。その中でも、5年生の上巻、5、6年生の下巻で示されている、今までにやっていない共同作品みたいなものが、開隆堂のほうは示されております。自分だけではできないけど、みんなでやったら新しいものができるぞという視点では、一つ面白いと思います。このところと同じように、実はこっちにもあります。空間のはちゃめちゃ度合いでという、こっちのほうかなと。こちらのほうがおとなしいかなと。

開隆堂ですが、これもすごいです。こんなところも子供たちを刺激して、新しいものをつくり上げていくということにはなるのかなと思います。これも同じですね、つくっていかうとすることです。

これが文教出版のほうですね。これとこれを比べると、ちょっと違いが分かるのかなと思います。

そういう点では、本市の子供たちに合っているものを選んでいくというのが今回の選定の大事な点だと思います。それから、先ほどの木の描き方ですね。ああいうところが子供たちにも示されるということが、いわゆる資料が子供たちの発想を広げる。見やすく、広げやすい。それから、先ほどの発展的な学習にも対応できているということから、開隆堂がよいという意見が多く出されております。

図工の教科書は開隆堂でよろしいでしょうか。

(委員一同異議なしの声)

- 大熊教育長 それでは、図画工作の教科書は開隆堂に決定いたします。
次に、家庭の説明をお願いいたします。
- 増田委員長 家庭科の報告をいたします。全2社になります。
東京書籍には、2年間の単元計画が分かりやすく示され、学年ごとの学習系統が分かりやすい、分野ごとにインデックスが色分けされている、調理をするときのよい例と悪い例が並べて記載されており、分かりやすいなどの特徴がありました。
開隆堂には、各題材の学習ごとに、自分の目当てを設定する記入欄があるため、学習内容を自分事として捉えられる、調理の手順、裁縫道具の使い方など、写真資料やイラストが大きく、分かりやすく、写真資料が豊富であるなどの特徴がありました。
報告は以上です。
- 大熊教育長 それでは、質問のある方、お願いいたします。
- 佐島委員 主体的・対話的で深い学びの実現という点において、両社の教科書にはどのような特徴がありましたか。
- 増田委員長 東京書籍では、各単元の最初に、話し合おうという活動が提示されており、写真などの資料から、児童が友達と意見を交流する設定になっています。
一方、開隆堂では、単元ごとに自分の目当てを記入する欄があり、最後には振り返りを記入して、目当ての達成を自分で評価することができるようになっています。
- 大熊教育長 本当ですね。その点では、主体的ということは両方ともうまくできているかなという気はします。
ほかにございますか。
- 穂坂委員 実習の扱いについての両社の違いというか、特徴は見られますでしょうか。
- 増田委員長 はい、ございます。
両社とも、道具の準備の仕方や使い方、実習の手順など、注意事

項も含め、丁寧に説明をしています。巻末や裏表紙に、野菜の切り方、布の縫い方など実習に関わる内容をまとめているので、両社とも振り返りができるようになっているということでございます。

大熊教育長 なるほど。甲乙つけ難いですね。
 何か質問はございませんか。
 よろしければ協議に入ります。

浅野教育長 私自身のというよりも、教科書展示会でのアンケートで、家庭科
職務代理者 の教科書について丁寧に書いてくださった方がいらっしゃるの
 で、ちょっと紹介させていただきます。開隆堂については、基本が押さ
 えられていて落ち着いた紙面づくりであり、基本的な技術をシンプ
 ルに伝えようとしているというふうに評価されております。東京書
 籍のほうについては、いいところだけ抜き出すと、写真や図が大き
 くて分かりやすいというふうに評価されています。
 以上、御紹介までになります。

大熊教育長 市民の声もたくさん寄せられていますので、その辺も参考に選定
 していきたいと思えます。
 ほかにごございますか。お願いします。

穂坂委員 選定調査資料によりますと、開隆堂には、調理の手順、裁縫道具
 の使い方など、資料写真やイラストが多くて分かりやすいと書かれ
 ております。
 このように具体的な場面が示されているということは、この内容を
 口頭では説明しづらく、資料としてあるほうが、児童として見や
 すいというか、理解しやすいのではないかと思います。このような
 資料を掲載されているということも大切なことではないかと考え
 ます。

大熊教育長 そうですよね。教科書は、一つの新しい使い方として指針になる、
 いつもここに戻るということができることが重要だというふうに
 思っております。どういうふうに調理したらいいかは、いろんなと
 ころで調べることもできると思いますが、基本はしっかり示されて
 いるということが重要だと思いますので、ここは一つ評価できると

ころであると考えます。

ほかにどうでしょうか。

佐島委員

先ほど、主体的・対話的で深い学びということで質問させていただいて、開隆堂の教科書には、単元ごとに自分の目当てを記入する欄があって、それで、目当ての達成を、最後に自分自身が振り返って、評価をするということができるといってお答えがありました。

選定調査資料にもそういうことが書かれておりますが、学習内容について自分なりの目当てを持って、それをきちんと最後、振り返っていくという、言わば学習を自分事として捉えて取り組んでいくというのはすごく大切ではないかなと思うので、そういう観点から、主体的な学習ができるということでも、開隆堂がいいのかなと思いました。

大熊教育長

いわゆる家庭の場合、何々をするということがある程度、決まっているところが多い教材であることは確かですが、その教材に対して、自分の目当てをしっかりと明確に書けるといふ点は、自分はどういうことを目当てにしてこの学習に取り組むのか、自分事ができるという点では、こういう書く欄を示しているというのは、いい教科書ではないかと考えることができるというのは、一つ指摘をいただきました。

ほかにございますか。

小山田委員

選定調査資料によりますと、開隆堂のほうですが、こちらは5年生の消費生活についての内容が、1学期でなくて2学期以降であるのがよい。身の回りのことを一通り学んだ後に、消費について学ぶほうがよいとあります。

目次のほうを見ていただくと、本当にそのようになっていますが、開隆堂のほうは、後半に出てくるんですね。5年生の後半に、生活を支えるものやお金というのと、あと、6年の最後に、持続可能な社会のためにということで、2つ分かれています。東京書籍のほうは、最初の4のところ、5年生に入ってすぐに、持続可能な社会へ、物やお金の使い方ということで、両方がまとまって、いきなり5年生の最初のほうに出できます。家庭科の学習を始めたばかりの5年生の1学期というところでは、やはり身の回りのことをまず学

んでいただき、学習に実感を持つというところから始めるほうがよいと思ひまして、5年生の後半、6年生にかけて、消費生活のことを学ぶのがよいのかと思ひました。

それからまた、開隆堂のキャリアに関する学習内容につきましても、とてもよいと思ひます。選定調査資料にキャリアインタビューとして、様々な職業の方のインタビューや生活の課題と実践例が載っていて、具体的で発展的に活動につながれるとありますが、最後の巻末のほうにキャリアインタビューということで、何人かの方々のお話が出ております。こういったところも、やはり自分のキャリア、これからのキャリア教育というところにも結びついていくのではないかと思ひます。

大熊教育長

今、小山田委員から指摘していただいた、消費者教育ということについて、重要なことは重要なんですけど、小学校入学して家庭科を学ぶときに、いきなりそれが出てくるよりは、ある程度、料理であるとか、自分の身の回りのことについてを勉強してからそういうものに入っていくというのは、何かそっちのほうがいいかなという気はしましたが、皆さんどうですか。

おいしいものを先に食べるということではなくて、子供たちの興味・関心の中から、興味が高まっていけばそういうことも学ぶと思ひますが、いきなりそういう形になってしまうのはいかがなものかなと少し考えられます。

今までの意見を整理していくと、いわゆる目当てが、しっかりと書くことができているとか資料が分かりやすい、それから、そういう意味では、学習内容を自分事化できるという教材として配置されている。それから今、指摘させていただいた、消費生活の学習時期が適切であるということから、開隆堂がよいという意見が多く出されております。

家庭科の教科書は開隆堂でよろしいでしょうか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

分かりました。それでは、家庭科の教科書は開隆堂に決定いたします。

次に、体育の説明をお願いいたします。

諏訪副委員長 それでは、体育の調査研究の報告をします。全6社になります。東京書籍には、学習内容に即した資料が多く、漫画などで児童にも分かりやすく載せられている、小单元ごとに学習課題が載っており、児童がゴールイメージを持って学習に取り組むことができるなどの特徴がありました。

大日本図書には、SDGsや著名なスポーツ選手など、児童の興味・関心を高める内容が盛り込まれている、緊急時の対応や日常的に気をつけることを記載した折り込みカードがあり、学習時だけでなく、日頃から活用することができるなどの特徴がありました。

大修館には、单元ごとにスポーツ選手や実在する人物のインタビューが掲載されていて、児童が関心を持って学習に取り組める、生活の中で保健の学習を生かせる場面を例示することで、実生活につなげやすい資料が掲載されているなどの特色がありました。

文教社には、もう一歩先の自分へという学習で、自分の生活に生かせるような枠があって分かりやすい、文字が大きくて読みやすく、1ページの内容も発達段階に合っているので、児童が学習しやすいつくりになっているなどの特色がありました。

光文書院には、身近に起こりやすい場面が想定されていて分かりやすい、各单元の最後には自分の生活に生かすページがあり、学習の振り返りにつなげやすく、学習の定着を図り、児童の日常生活に目を向けさせるような構成になっているのがよいなどの特徴がありました。

学研には、性教育やLGBTQなど、現代の課題に合った内容が盛り込まれているのがよい、学習内容に関わる資料は、保健の箱、児童の関心を高める発展的な資料を載せていることで、学びの質を深くしているなどの特徴がありました。

報告は以上になります。

大熊教育長 それでは、質問のある方、どうぞ、お願いします。

浅野教育長
職務代理者 これも先ほどと同じように、説明で触れられていたかと思いますが、念のための確認で、いわゆる主体的・対話的で深い学びという観点から見て、各社、どういうところが特徴的かということをお教えいただけますでしょうか。

諏訪副委員長 6社ともそれぞれ、毎時間の学習過程が、課題に気づく、課題をつかむ、調べ、考える、話し合う、やってみようという流れになっているため、全ての教科書において、主体的・対話的で深い学びを意識した構成になっていることが分かりました。

浅野教育長 ありがとうございます。
職務代理者

大熊教育長 ほかにございますか。どうぞ。

佐島委員 保健体育ということで、体の学習のように思いますけれども、体の健康とともに、心の健康はすごく大切ではないかなというふうに思っています。
そういう観点で、不安とか悩みへの対処の扱いとか、特徴のある教科書はございましたでしょうか。

諏訪副委員長 全ての教科書会社において、5年生の心の健康の単元で、不安、悩みへの対処について扱っています。
その中でも、特に学研と光文書院は、単元終末の発展学習の内容が充実しています。悩みの相談方法や人との接し方など、具体的で実態に応じた内容が掲載されています。

大熊教育長 ちょっと見ますね。こんな感じですよ。やはり今の子供たちに、これも、どこでもみんな、一応はありますが、これもあります。
なるほど。取り上げられていることは取り上げられています。取り上げ方がちょっとずつ違います。その辺は後で示したいと思えますけれども、ほかにございますか。

小山田委員 保健の授業は、2、3年生では年間4時間、5、6年生では年間8時間という、非常に限られた時間なので、漏れなくポイントを絞って学習するということが大切だと思います。
そういった点で、選定調査資料を見ますと、大日本図書、文教社、光文書院の3社が、記述の量が適当であるとなっておりますので、こういった定められた、限られた時間の中で、計画的に学習を進め

られるのではないかと、この3社については思います。

大熊教育長 なるほど。ほかにございますか。
 協議に入ります。

浅野教育長 選定資料を拝見していて、思ったのは、けがのような日常的な身
職務代理者 体との接点、これはかなり大切だなと思いました。

 選定資料では、ちゃんとそここのところに触れてくださっていて、
光文書院と学研ですかね、けがの扱いについて、きちんとページを
割いて記述されています。これはとても大切なポイントなので、教
科書を選ぶときに重視すべきところかなと思いました。

 光文書院はフローチャートを使って、学研のほうはイラストなど
でというふうに、資料のほうでは書かれています。

大熊教育長 けがの防止のところですよ。どうしたらいいかというのが順番
 に示されている。

 こっちは、どうしたらいいかというのがフローチャートで示され
 ている。何をどうしたらいいか、しっかりと頭に入れておかなけれ
 ばいけない内容なので、基礎基本としてはしっかり身につけておき
 たいということは確かにあるかなと。

 ほかにございますか。

佐島委員 先ほど質問させていただいた、心の健康ということに関してです。
 本当に子供たちは、成長していく過程において、いろんな悩みとか
 不安を抱えることがあると思います。

 いじめ、不登校、自殺というような深刻な問題が増加している
 という中で、子供たちの不安や悩みに適切に対処できるようになっ
 ていくということがすごく大切だと思います。

 そういう点で、教科書に様々な内容が記載してあるというところ
 が大事ではないかなと思いました。

 各社それぞれ、内容の記載があるというお話でしたが、先ほど映
 していただきました、現在使っている光文書院のところには、具
 体的な相談先が掲載してあったりとか、人との接し方について、児童
 の周りで実際に起こりそうな例というのを挙げたりしているので、
 とても実感しやすいのかなと思います。

大熊教育長 この点は新しいところで、先ほどの、どういうふうに接したらいいかということが具体的に書いてあります。こういうところは、本市の子供たちにとって、友達とのコミュニケーションの中でどう関わったらいいかという点を指導するときにも、一つの指針になるのではないかなと思います。

 こういう形で書かれているのは、ほかの教科書にはないところです。その辺は指摘させていただきたい。

 ほかにございますか。

穂坂委員 学習した内容を日々の生活に生かせるということが大切だと思いますが、文教社には、もう一步先の自分へ、光文書院では、自分の生活に生かすという部分があり、自分の生活に生かせるような工夫、健康に対する考え方が示されています。

 選定調査資料によりますと、光文書院のほうは、学習の振り返りにつなげやすく、学習の定着を図り、児童の日常生活に目を向けているような構成になっているかと思います。

 現在も、光文書院を教科書として使われているということですので、先生方や児童も取り組みやすいのではないかなと思います。

大熊教育長 それでは、ほかにございますか。

 今も使っている光文書院は、自分を優先した場合、相手を優先した場合、自分も相手も大切にした場合、先ほどのアサーションということですけど、両方を大事にするというときには、どういう違いがあるのかという気持ちを大切にされたコミュニケーションという部分がしっかりと示されていること、こういうことが大事であるということをお子へにも分かってもらう。

 それと、自分と人との距離感というようなことも示されていて、こういうことがしっかり指導されるということが今後も必要なのではないかな、その一つが示されているということが大事かなというふうに思います。

 それから、先ほどもあったように、ここのところは大体、こういうことで書きましようというのがありますが、新型コロナウイルスのことについても記述がありますし、それから、前回、選定資料のときに、今、癌がとても増えていて、どういうふうに予防できるの

かということを知るということが、癌予防の重要な視点であるというふうにも言われております。光文書院を選んだときにはこれが一つの観点になっていましたが、これも示されています。

今までの意見を総合的にまとめていきますと、心の健康であるとか、事故、けがの予防の観点、それから、病気の予防の観点からも適切に記載されている、今、使われている光文書院がよいという意見が出されておりますが、体育の教科書は、現行に引き続き、光文書院でよろしいでしょうか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 体育の教科書は光文書院に決定いたします。
次に、外国語の説明をお願いいたします。

増田委員長 外国語の調査研究の報告をいたします。全6社になります。
東京書籍には、コミュニケーションの例が示されるなど、スモールステップで学習が進行していくようになっている、「My Picture Dictionary」が5、6年生をまとめた別冊になっているので、復習や予習にも使用できるなどの特徴がありました。

大熊教育長 これですね。

増田委員長 開隆堂には、ターゲットセンテンスを、会話の場面や状況を提示した上で押さえるように設定している、比較的長文の英語が示してあり、読むことを充実させているなどの特徴がありました。

三省堂には、書き込みをする部分は最小限にとどまり、話す、聞く活動を中心に作成されている、自分や身近な友達から始まり、地域や世界へと広がっていく単元構成となっているなどの特徴がありました。

教育出版には、様々なテーマを取り上げていて、児童の興味を引くものが多い、有名人や身近な昔話などが資料にあり、親しみやすくなっているなどの特徴がありました。

光村図書には、日常生活や学校生活の場面を取り上げており、児童によって身近な事柄が教材となっている、5年生における音声中心の学習を受けて、6年生では、徐々に読む活動、書く活動を導入

しているなどの特徴がありました。

啓林館には、手紙、発表、ペアなどファイナルアクティビティーの種類が多く示されていて、多様な活動ができる、全単元に「Did you know?」のページがあり、世界の文化や慣習、SDGsの内容に触れることができるなどの特徴がありました。

報告は以上です。

大熊教育長 それでは、質問がある方、どうぞ。

佐島委員 御説明にもあったかと思いますが、確認の意味で、主体的・対話的で深い学び、また、個別最適な学び、協働的な学びの実現、また、英語におけるコミュニケーションの充実という点において、特徴のある教科書はありましたか。

増田委員長 主体的・対話的で深い学び、協働的な学びについては、どの教科書でも様々な工夫が見られ、実現できる構成になっております。

個別最適な学びに関しては、東京書籍と三省堂には、スモールステップで学習できるような工夫が見られます。

コミュニケーション活動は、どの教科書も充実していますが、比較的アクティビティーの種類が多いのは、啓林館でした。

大熊教育長 なるほど。ほかにございますか。

浅野教育長
職務代理者 外国語は、その両端で前段階と後段階を接続するという特色を持っていると思います。

つまり、中学年における外国語活動があって、それに続く形で高学年の外国語が入ってくる。そして、その外国語は、中学校の外国語というか、英語に接続していくという、両端に接続を持っていると思いますが、この両者の接続を意識した、何か特徴のある教科書はありましたでしょうか。

増田委員長 どの教科書にも、英語辞典の機能を持たせた付録がありますが東京書籍、開隆堂、三省堂は、別冊として教科書から分かれています。

中でも東京書籍は、5、6年をまとめて1冊にしてありますので、復習や予習にも使用できるようになっています。

英文を読む活動が特に充実していたのは、開隆堂です。

英文を書き込む内容が特に充実していたのは、東京書籍でした。

どの教科書も、中学生になったらという発表をする単元があります。例えば東京書籍、教育出版、光村図書には、部活動について質問するなどの会話形式を取り入れておりました。

浅野教育長
職務代理者

ありがとうございます。

大熊教育長

よろしいですか。それでは、協議に入ります。

穂坂委員

教科書展示会のアンケートによりますと、英語の教科書の内容が難しい、英単語や英語の文章が多いという意見がありました。

私も実際に、見本本を見ながら調査研究を進めていく中で、同じような思いを持ちましたが、今の報告や質疑応答の内容から、どの教科書会社も、学習内容に興味を持たせるような工夫や、習う側の児童が理解しやすくなるような構成になっているかということが分かりました。

大熊教育長

本当に、見てびっくりしますよね。

穂坂委員

このようなことが僕の世代にあったら、もっと英語が話せるようになったのではないかと思いますけど。

大熊教育長

本当に驚きでございます。

ほかにございますか。

佐島委員

3年生から、子供たちは外国語活動というのをしていますが、5年生になって、外国語という教科の学習を始めていくということを考えると、確実に学習内容を身につけられるということが大切かなと思います。

そのような点では、先ほど質疑応答にもありましたが、東京書籍と三省堂には、スモールステップで学習できるような工夫があるとのことでしたので、個別最適な学びという観点からも大切なことかなと思いました。

東京書籍の6年生の最初の部分を映していただきたいのですが、いろいろ教科書を見ていく中で自分の好きなものや宝物を紹介するというような活動があります。少しずつ子供たちが書き込みをしながら学習を進められるようにしていますので、段階を追って学習をできていくという良さがあると思いました。

大熊教育長

このところは、私も思いました。

この部分ですが、会話を聞いて、先生が好きなものにチェックを入れましょうと言って、まずチェックを入れるという段階があります。その次に、好きなものを尋ねようと言って、これと同じことを今度繰り返します。それで、それを文章にしてみようという、一つ一つがスモールステップで学べるようになっています。

先ほど穂坂委員からもありましたが、このぐらいだったらできるかなという感じがします。

スモールステップというのは、このように一つ一つ押さえてあげれば、何に取り組むかというのも分かりやすいのではないかなというふうに思いました。

ほかにございますか。

小山田委員

4年生までの外国語活動からのつながりということを考えますと、英語によるコミュニケーションの活動が充実をしていると取り組みやすいのではないかと思います。

先ほどの質疑応答によりますと、啓林館につきましては、アクティビティーの種類が多いということで、実際に見本本を見てみますと、手紙や発表、ペアワークなど様々なアクティビティーが掲載されていました。

また、選定調査資料によりますと、東京書籍には、英語によるコミュニケーションを通して外国の文化を学び、国際理解を深めていけるとあります。こちらも、6年生の目次を実際に見てみますと、世界の国や生活を伝え合おう、世界と地域を見つめようなどという言葉で示されておりまして、そのスモールステップの先には、これからの社会では、英語のコミュニケーションというだけにとどまらないで、グローバルな視野を子供たちに持っていいてもらおうというところでは、非常に学習効果が期待できるのではないかと思います。

大熊教育長

そうですね。ほかにもありますが、後でまた説明します。
ほかにございますか。

浅野教育長
職務代理者

最初に、少し細かいことですが、英語ではなくて外国語となります。英語というのは、外国というか、国外に通じる手段の一つにすぎないので、まずそこが確認されている必要があると思います。

その観点から言うと、教科書の最初に英語しか書いていないものと、英語以外の言語がその国の文字とともに書かれている教科書があります。結局は、英語の話になるのですが、唯一ではないということを経験として示しているようなところがあって、それは望ましいことかなと思いました。

具体的に言うと、東京書籍と光村図書と三省堂、その3社は英語以外の言語をあえて示しているところがあります。これは面白いことだなと思いました。

教科書を一通り見る中で、英語に関しては非常に難しいなと思うんですよね。なぜかという、まず一方では、英語を嫌いになってほしくないが我々としては考えていて、せっきやく英語をやるのに、ここで嫌いになってもらっては困るということがあります。

でも他方で、中学校の英語は、今、水準がぐんと上がってきていて、そこに接続していくためには、最終的に出口はそれなりのクオリティーのものになっている必要があります、これも困ります。

だから、入り口はなるべく敷居を低くし、しかし、出口はなるべく水準を高くという、矛盾した2つの要素に挟まれていて、英語というのはなかなか大変な教科だなと思いつつ、教科書を拝見していました。結論から言うと、私は東京書籍の教科書がいいかなというふうに思いました。

最初の5年生の時点で英語を嫌いにならない工夫というのは、これはかなり、どの教科書でもなされていて、甲乙つけ難いところがあると感じます。

他方で、出口のところをみますと、本市教育委員会も、国際的な人材の育成ということ掲げて、そういうことに随分、力を入れています。やはり英語教育もそれに見合ったものである必要が、あってほしいというふうに思うわけです。

その観点から見て、3つぐらいのことを申し上げたいのですが、

1つは、進捗と申しますか、進捗具合、今、自分がどのステップにいるかということをごきちんとして記していることが、学習を促進させるという観点から見ると、東京書籍の進捗の示し方はとても分かりやすい。光村図書も同じくらい分かりやすいかなと、私自身は思いました。

全部見比べてみていただくと本当はいいのですが、右サイドのページの上のほうです。どの学年、どの教科書を使ってもいいのですが、こういうふうにご示されているのと、一番対比としていいのは教育出版です。教育出版の方には申し訳ないのですが、対比として、三省堂でもいいかもしれないです。

自分がどこにいるのかということをご、いつもページの右側を、上を見ると分かります。これがきちんとして示されているのは、恐らく光村図書と東京書籍の2つだけで、示されているものでも、印がついているだけです。

浅野教育長
職務代理者

光村図書もそういうふうにご示されているのですが、情報内容は東京書籍のほうご少し多いかなというふうにご思います。

大熊教育長

そうですね。

浅野教育長
職務代理者

ほかの教科書は、それよりもさらに少なく、目当てのところに示されたものと、ページの上に記されているものご対応が、実は必ずしも対応していないものごあって、進捗を自ら確認するという観点から言うと、東京書籍の出来はいいご思います。あと、光村図書もなかなかいいのではないかなというふうにご思いました。それが1点目です。

2つ目ご、二次元コードのリンク先です。今回の教科書を見て、英語は恐らくですが、端末抜きには授業ご成り立たなくなりつつあるのだろうご思います。リスニングも動画も全部、二次元コードを読み込んで見る形になっています。

ポイントは、二次元コードを読み込んだ後のインターフェースです。それは、分かりにくいものと分かりやすいものごがあると感じました。

分かりにくいものご例は、目次が出てくるパターンですね。目次が出てきて、それをクリックして次に進む形になっているものごです。

それは、どこを押していいのか迷うケースが結構、出てくるだろうと思います。

他方、分かりやすいのは、即、コンテンツのリンクに行く形になっているものですね。これは分かりやすいと思います。

中間で、そのユニットの目次が出ているとか、そのページの目次が出ているという中間形態もあります。

分かりやすさということで考えると、私は、東京書籍の二次元コードのリンクの仕方が分かりやすいかなというふうに感じました。

第3に、これも先ほど申し上げた、本市としては国際的な人材育成ということに力を注ぎたいということに関わってくるのですが、中学校との接続を考えたときに、英語を書かせるということがとても重要なポイントになってきます。

全ての会社の教科書を比較すると、単純に書かせる行数をカウントしますと、東京書籍の英語を書かせる分量が際立って多いです。中学校で使うタイプのフォーマットを使っています。書かせる部分を単純に数えると東京書籍が一番多くなっています。これは望ましいことだなと思います。

以上3点から、東京書籍がいいなと私は思いましたが、1点難点があり、それは、今、言ったことをちょうど裏返す形になるのですが、難易度が高いということです。

私は、同じことをさっきも言いましたが、学校訪問等で研究授業等をこれまでに見てきた印象で言うと、これくらいだったら本市の児童はいけるのではないかと思っています。そのことを前提にした上で、東京書籍の教科書はとてもよかったなというふうに思いました。

大熊教育長 確かに、最後の山の高さは、東京書籍が一番高いのだろうと思います。もう一度、振り返って見ていただきたいのですが、裾野の広がりやの低さというのは、スモールステップでいくと、東京書籍のこの順番が一番シンプルです。

浅野教育長
職務代理者

そうですね。

大熊教育長 ほかの教材を比べると分かりやすいと思いますが、もっと多く示

されてしまっているのです。こうやって示されていると、同じことをやろうとしているのですが、どちらがスモールステップかといったら、こっちですよ。

これは2択ですが、この中でもいっぱいになってしまい、これだけでもハードルが高くなっています。

そういう意味では、スモールステップで子供たちにとっつき易いという教科書と言えます。反対に、最後の最後は、文字で書くところもしっかりあるので、難しい面もあります。

それからもう一つは、このところに今、何を勉強しているのかと示している内容があり、ほかの教材もこれはあるのですが、ここまで細かく書いているのはないですよ。

スモールステップで学習が進むという観点では、東京書籍が一番細かく設定されているということもあります。また、中学校へのつながりを考え、このつながりのバランスが重要だというふうに考えると、外国語の教科書は東京書籍でよろしいでしょうか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

山が高いということも踏まえて、そういう形もありますけど、スモールステップもしっかりとできているところから、外国語の教科書は東京書籍に決定いたします。

最後の教科書になりました。

次に、道徳の説明をお願いいたします。

諏訪副委員長

それでは、道徳の調査研究の報告をします。全6社になります。東京書籍には、役割演技を促すページや思考ツールの紹介ページがあり、考え、議論する道徳の実践につなげやすい、4年生以上は巻末に心情円の付録がついており、自分の心を可視化できるようになっているなどの特徴がありました。

教育出版には、役割演技を促す教材が掲載されており、実際に体験することで児童が考えやすくなる工夫がある、1年生は絵だけの教材からスタートしたり、絵や写真が多く使われたりするなどの配慮がされているなどの特徴がありました。

光村図書には、教材の冒頭に教材名と主題名、導入の問いが記載されているなど、学習の見通しを持ちやすくしている、SDGs、

他教科、特別活動などとの関わりといった他分野とのつながりを意識したコラムが設定されているなどの特徴がありました。

日本文教出版には、いじめや人権問題等人との関わりを重視した教材が多く取り上げられている、各学年に別冊ノートがあるなどの特徴がありました。

光文書院には、各学年に、コラム「みんなでやってみよう！」があり、コミュニケーションスキルを高める工夫がされている、考え方のバリエーションとして曲線、ウェビング、スケール、半同心円などが紹介されており、効果的に学習ができるなどの特徴がありました。

学研には、内容項目A、B、C、Dをそれぞれ扉と表現し、巻頭で、道徳とは4つの扉を開いて自分を見詰める時間と表しています。各学年、日常生活を題材にした教材からスタートし、社会的な課題や偉人への話へ変遷していく構成になっているなどの特徴がありました。

報告は以上です。

大熊教育長 それでは、質問のある方、お願いいたします。

佐島委員 今の道徳の授業においては、考え、議論するということがすごく大切ななというふうに思っています。

そういう観点、また、繰り返しになりますけど、主体的・対話的で深い学びの実現という観点から、特徴のある教科書はありましたでしょうか。

諏訪副委員長 どの教科書会社でも、巻頭に道徳の学び方を示しています。

気づく、考える、深めるの3段階で示されているものが多く、それぞれの段階における具体的な方法が例示されているため、児童にとって分かりやすいものになるような工夫がされています。

その中でも、教育出版は、考える手だてについて幾つも例示されているので、分かりやすくなっていると思います。

大熊教育長 ほかにございますか。

穂坂委員 いじめについての深く考えられるような資料として、特徴のある

教科書はございますか。

諏訪副委員長 年3回以上、いじめに関する授業を道徳の時間に行っている学校が多くありますので、道徳の教科書における、いじめに関する資料は大変重要だと考えています。

いじめについて学ぶ時間があることがきちんと分かるように、目次に明示されている教科書は多くあります。

その中でも、東京書籍と日本文教出版には、いじめを防ぐためにはどのようにすればよいかを考えられる資料が掲載されておりますので、児童がいじめについて考え、議論しやすくなるような工夫が見られます。

大熊教育長 東京書籍のこのところですね。目次のところにも、いじめという項目がしっかり書いてあって、その内容が、何を勉強するのか分かるようになっています。

ほかのところもあるんですけどね。

ほかにもございますか。

なければ協議に入ります。御意見をどうぞ。

浅野教育長 お疲れのところ恐縮ですが、少し長くお話しさせていただきます。
職務代理者 まず、道徳教育については、教科化されて以降、一方に期待する方々がおられ、他方では、懸念を示される方々もいらっしゃいます。いずれもそれなりの根拠を持って、そのように感じられているなどというふうに、私としては受け止めています。

例えば、期待ということ言えば、我々も、明日の小金井教育プランの中で、思いやりとか公共心の育成ということを掲げておりまして、道徳教育はその柱だと思います。

他方で、懸念ということについては、教科書展示会でのコメントの中にもありましたけれども、例えば既存の価値観を伝達するだけのものになるのではないかという不安をお持ちの方はいらっしゃると思いますし、それもそれなりの根拠のある不安だろうと考えております。

なので、我々としては、慎重に教科書を選んでいく必要があるんだろうと考えます。

この両方に応えていくために、ぶれない軸を持つ必要があると私

はと思いますが、軸はおおむね2つあって、1つは、人権の尊重というところに軸足をちゃんと置けているかどうかということです。もう一つが、考える道德、議論する道德という、ここをきちんと徹底できるかということだろうと思います。

という大前提の下で、教科書を全部通して見て、私は東京書籍か光村図書、この2社がとてもしついなというふうに思いました。これについて、今から4つほどお話をさせていただきます。

道德の教科書は基本的に、各社とも似たような教材を採用していることが多いです。だから、それを比較すると一番分かりやすいので、例えばということで、どれを使ってもいいのですが、高学年の「ブランコ乗りとピエロ」という素材に注目してみたいと思います。

光村図書と東京書籍は、これは5年生に配置されています。ほかの会社は全て6年生に配置されています。この学年の違い自体が意味を持つという話を後でしますが、まず、これを全部比較してみて、一番最初に、目当てみたいなものが絶対書かれていいいます。その目当てが、先ほどから議論にあるように、答えになっているようだと、考えることも議論することも難しくなってしまうわけです。

そこで、目当てを見てみますと、学研は、これはこれで、ちょっと突き抜けていて面白いですが、東京書籍と光村図書はそれぞれ、「わかり合うために」、「ともに生きる」、ほかの会社は、教育出版「広い心をもって」、日本文教出版「広い心で」、光文書院「広い心で」となります。

要するに、広い心を持ちましょうと徳目を懲慥している形となっていて、議論という感じではないわけです。

繰り返しますが、光村図書と東京書籍の2社は、「わかり合うために」というものと「ともに生きる」というものを掲げていて、徳目掲揚主義とはやや違ったスタンスを取っているところが評価に値すると、私としては思いました。これは、考えること、議論することの前提になると思います。

ついでに言うと、同じように、多分、全ての会社で採用されている、「手品師」という教材があるのですが、「手品師」の場合はもっとはっきりしていて、これの目当ては、日本文教出版は誠実な心、教育出版は誠実に生きる、光文書院も誠実に生きる、光村図書は誠実に明るいい心で生活する、これに対して東京書籍は、誠実とは、クエスチョンマークなのです。

つまり、さっきの、何ができるかな、どんな計算ができるかなというのと同じで、そこから考えましょうということで、誠実にやりましょうではなくて、誠実って何だと思うというところからスタートします。これはなかなかよく考えられているなというふうに思いました。

ほかの単元を見てみても、似たようなことを見いだすことができます。それが1点目です。

2点目が、学年の配置です。実は東京書籍と光村図書だけが、このエピソードを5年生に配置しています。

これは、児童の発達段階について、ほかの会社とは違った見識を持っているなというのが私の印象で、要するに、このエピソードは、考え方の違う2人が対立するという話で、対立してどうするかということですね。

この問題は、恐らく4年生から5年生にかけて、実際に起こってくる問題なので、6年生よりも5年生であるほうがいいのだろうなと思うわけです。それが2点目です。ちなみに、今のことは、いじめにもつながりかねないポイントだろうと思います。

加えて、第3点目に、光村図書も東京書籍どちらも、同じ5年生のところに、子どもの権利条約を配置しています。

要するに、価値が対立する、そのときにどうするかという話と、子どもの権利条約、権利や人権といったものを関連づけて教えることができるように構成されているというのは、これは非常に優れた環境だと思います。

ついでに言うと、東京書籍は同じく5年生に、世界人権宣言を取り扱っています。光村図書のほうは取り上げ方としては大きくて、6年生に世界人権宣言を単元としています。東京書籍のほうは、つながる、広がるという、いわゆる補助的な部分で取り上げているのですが、光村図書のほうは、一つの単元として、正面から6年生で扱っています。

さっきも申し上げたように、人権の尊重、人権を基盤にすることとはとても大切なことなので、そのことをきちんと意識されたつくりになっているなというふうに思います。

ちなみに、光村図書の5年生の目次を映していただけますか。

私は光村図書のここはすごいなと思ったところがあって、目次の、今の「ブランコ乗りとピエロ」のちょうど色がついているところで

すが、見ていただくと分かりますが、「ブランコ乗りとピエロ」が、「だれもが幸せになれる社会を」という单元と一緒にあって、それが子どもの権利条約なんですね。

だから、価値観が対立する、そこから仲が悪くなったり、けんかしたりする、このことを考える上で、どこから考えるかということ、ここから考えるという話になるわけですね。これは非常に優れた作り方だなというふうに、私個人としては思いました。

まず、ここまでで3点です。

4点目ですが、そうすると、光村図書と東京書籍のどっちがいいかという話になるんですね。

ちなみに、学研は突き抜けていて、徳目とかそういうことではなくて、例えば「ブランコ乗りとピエロ」だと、学研の場合は、私の何が悪いと言うんだという言葉が最初に掲げられていて、これはこれで突き抜けていて面白いなと思いました。ちょっとそのことは置いておいて、私は東京書籍と光村図書に絞って比較した場合、一番大きな違いは、一番最後です。

「ブランコ乗りとピエロ」の一番最後のページ、両社を見せていただけますか。

簡単に言うと、東京書籍はシンプルで、光村図書は親切です。こちらは光村図書ですかね、上に考えるべきポイントが掲げられていて、3つ上がっています。これは全ての单元でそうですが、光村図書は3つ上げて、1つが二重丸になっていましたよね。東京書籍のほうは、2つ上げています。これは全ての单元で同じで、東京書籍のほうがシンプルで、光村図書のほうがとても親切にできています。

ここをどう評価するかということですね。私は、光村図書の親切さもいいなと思いつつ、親切過ぎると先生方の創意工夫を縛るという可能性もあって、どっちなのだろうと悩んでいました。でも、今まで授業を拝見させていただいて、道徳の研究授業も随分見せていただきましたので、本市の先生方は力のある方が多いので、あまり制約をかけずに自由にやってもらったほうが、十分に、存分に力を発揮できるのかなと思いました。それから、市民展示会のアンケートでも、道徳の教科書がちょっと誘導的過ぎやしないかという御意見もあり、つまり、親切さは同時に誘導でもあり得るので、そういう懸念に答えるという意味でも、シンプルな東京書籍のほうが、もしかするといいのかなというふうに思った次第です。

これが4点目です。長くなりましたが、以上です。

大熊教育長 なるほどと思います。ほかにございますか。

穂坂委員 御専門の方にこれだけ御説明いただいて、私として意見はというと、基本的には、我々の時代のように、読むだけの道德ではなく、やはり、考え、議論する道德というのが大事なかと今、また改めて思いました。

以上です。

大熊教育長 でも、考える、議論する道德ということを考えていくと、浅野委員の指摘していただいた、先ほどの、誠実ということをどう扱うか。

実は思い出したのですが、私が最初に道德の授業研究をやったのが、「手品師」でした。そのときの黒板の最初に、「誠実」と書いたのです。そのときの指導者に、あそこに書いたら駄目だろうと言われました。

そのことを今日、言われて、そうだよなど。あのときは何でだと、若げの至りで思いましたが、まさにそういうことなんだなど。あそこで、誠実ということはこういうことだと教えることは道德ではないと言われたのです。なかなか全部自分の中に入ってこなくて、誠実を教えるべきであるみたいに思っていたのだと思います。だから、最初に書いて、この次の教育委員会に、そのときの写真がありますから、持ってきます。黒板の最初に、「誠実」と書いてある。

でも、「誠実とは」と書かれたら、やっぱり違いますよね。議論できますよね。そういう教科書を選びたいというのは、やはり大事な点だと思います。

ほかにございますか。

小山田委員 浅野委員のお話で、何かいろいろ納得するところはあるして、本当に、考えて議論をするというところと、人権の問題ですかね。子どもの権利条例とか世界の権利条例というのが示されていることは非常に重要だと思います。

ちょっとまた違う視点の中でいきますと、道德の教材に、いろんな教材に触れる中で、実際、児童が悩んだり葛藤したりすることがきっと多くあると思うのですが、東京書籍のほうには、選定調査資

料によりますと、巻末に心情円の付録がついており、自分の心を可視化できようになっています。それと、光文書院には、曲線、ウェビング、スケール、半同心円などの考え方のバリエーションを紹介しているとありますので、そういったところでは、児童が何か考えるときに、自分の心の中を可視化するというところでは、何か手助けになるのではないかと思います。

大熊教育長 こういうやつですよ。自分の気持ちがどのぐらいかということ
を言うときは、なかなか難しく、それをこうやって大きさを表現
していくというのが一つあるという、そのやり方も一つですね。
ほかにございますか。

佐島委員 先ほど教育長の話をお伺いして、私も思い出しましたが、私も若
かりし頃、「手品師」という教材で道徳の研究授業をやったことがあ
りました。

大熊教育長 私も同じです。

佐島委員 そのとき作った、当時はOHPという光で映す機材、それで教材
を作って、今でも取ってありますけど、やっぱり秀逸な教材という
のは時代を越えて継がれていくものなんだなと感慨深く思いま
した。

ちょっと余計な話でしたけれども、先ほど穂坂委員がいじめに関
わる質問とかをされて、いろいろなお答えがありましたけれども、
東京書籍の教科書を見せていただくと、いじめに関する資料の充実
がすごくあるなと思っています。

選定調査資料にも、東京書籍の部分に、既存の秀逸な教材が充実
しているのと同時に、いじめやSDGsなど現代的な内容を取り上
げた新しい教材がバランスよく入っているというふうになり、教材
のよさが認められると思います。

先ほど浅野委員のお話にもありましたけど、そういういじめの教
材に続いて、効果的な資料、5年生では子どもの権利条約、6年
ではいじめ防止対策推進法などが掲載されています。

大熊教育長 ちょっと見せてもらいたいです。

浅野教育長 6年生の36ページですね。そのつながる、広がるのところで
職務代理者 す。

佐島委員 あと、東京書籍の5年生も42ページのところですね、いじめに
ついてです。

大熊教育長 ここですね。

佐島委員 はい。そういうふうに、社会の仕組みとしても、いじめはいけな
いということとつながっているというのは、すごく大事なかなという
ふうに思います。

東京書籍は、現在も使っている教科書なのかなというふうに思う
のですが、選定調査資料を見せていただくと、東京書籍は、心なし
かではないんですけど、びっしりいろいろと、よいところが書かれ
ているなという感じがしまして、先ほどから議論が出ています、考
え、議論する道徳ということと言うと、その実践につなげやすいと
いうふうに、東京書籍のところには唯一書いてあるんですね。

そういうことから、学校の先生方がこの教科書を使ってきて、す
ごくいい教科書だというふうに考えていらっしゃるのかなという
ふうに思うので、東京書籍がいいかなと思いました。

以上です。

大熊教育長 実は先ほど、いじめの研究授業をやったときの講師の先生は、い
じめの「手品師」を書いた本人でした。それで、そのときに私は、
誠実と書くのは良くないと言われたのが今、ようやく分かった気が
して、両者の立場の違いを超えて、子供たち自身に考えてもらう。
誠実に生きなさいということじゃなくて、それをしっかり考えても
らうという教材として扱われている。

たくさん今、出ていましたが、考え、議論する道徳を実践する、
それから、子どもの権利条約、いじめ防止条例等もしっかりまとめ
てみますと、そういう教材があり、それから、先生方のコメントに
も、考える道徳、議論する道徳はやりやすいというふうに評価され
ている道徳の教科書は、東京書籍でよろしいでしょうか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

道徳の教科書は東京書籍に決定いたします。

それでは、令和6年度小金井市立小学校使用教科書の採択につきましては、国語は光村図書、書写が光村図書、社会が東京書籍、地図が帝国書院、算数が東京書籍、理科が教育出版、生活が東京書籍、音楽が教育芸術社、図画工作が開隆堂、家庭科が開隆堂、体育が光文書院、外国語が東京書籍、道徳が東京書籍と決定いたします。

以上で、令和6年度小学校使用教科書の選定を終了いたします。

5分間休憩します。

休憩 午後5時20分

再開 午後5時30分

大熊教育長

再開いたします。

次に、日程の第3、議案第30号、小金井市体育館条例施行規則の一部を改正する規則及び日程の第4、議案第31号、小金井市栗山公園健康運動センター条例施行規則の一部を改正する規則を議題とするところですが、円滑な議事進行を図るため、以上2件につきましては一括議題としたいと思います。これに御異議ございませんか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

異議なしと認めます。日程の第2及び第3につきましては、一括議題とすることに決定いたしました。

それでは、提案理由の説明をお願いいたします。

梅原生涯
学習部長

提案理由について御説明いたします。

議案第30号及び議案第31号につきましては、公共施設予約システムの更新に伴い、関係規定を整備する必要があるため、本案を提出するものであります。

議案第30号資料、新旧対照表を御覧ください。

第3条第2項、貸切使用の申請について、使用日の2か月前の月の初日からとし、市民以外の場合は、使用日の1か月前の月の初日

からとするものです。

付則につきましては、本規則は、公布の日から施行し、本規則による改正は、令和5年4月1日以後の体育館の使用に係る申請について適用すると定めるものでございます。

議案第31号、栗山公園健康運動センター条例施行規則についても、同様の改正を行うものでございます。

説明は以上です。

大熊教育長 事務局の説明が終わりました。何か質問、御意見はございませんか。

これは全体のシステムの改修によって行われたことですね。

梅原生涯
学習部長 はい。様々な施設の予約システムを更新しまして、それに伴って、規則を改正させていただいたということでもあります。

大熊教育長 ということですので、よろしいですか。

以上で質疑を終了いたします。

これから採決を行います。採決につきましては、1件ずつお諮りすることといたします。

それでは、お諮りいたします。議案第30号、小金井市体育館条例施行規則の一部を改正する規則は、原案どおり可決することに御異議ございませんか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 御異議なしと認めます。本件については、原案どおり可決することに決定いたしました。

お諮りいたします。議案第31号、小金井市栗山公園健康運動センター条例施行規則の一部を改正する規則については、原案どおり可決することに御異議ございませんか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 御異議なしと認めます。本件については、原案どおり承認することに決定いたしました。

次に、日程の第5、議案第32号、小金井市スポーツ推進審議会委員の委嘱についてを議題といたします。

提案理由の説明をお願いいたします。

梅原生涯
学習部長

提案理由について御説明いたします。

本件につきましては、小金井市スポーツ推進審議会の委員に欠員が生じたことにより、委員を委嘱するため、本案を提出するものがあります。

議案第32号の別紙を御覧ください。

1人目の委員の方は、山田裕己さん、公益財団法人小金井市体育協会からの推薦による委員の方でございます。

2人目の方は、多田啓子さん、論文審査による公募委員でございます。

任期につきましては、お二人とも委嘱日から、現委員の任期である令和6年2月13日までとなります。

説明は以上でございます。

大熊教育長

事務局の説明が終わりました。何か質問、御意見はございませんか。

よろしいですね。以上で質疑を終了いたします。

それでは、お諮りいたします。議案第32号、小金井市スポーツ推進審議会委員の委嘱については、原案どおり可決することに御異議ございませんか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長

御異議なしと認めます。本件については、原案どおり可決することに決定いたしました。

次に、日程の第6、協議第1号、公民館緑分館野外調理場の検討状況についてを議題といたします。

協議の内容について説明をお願いします。

梅原生涯
学習部長

協議内容について御説明いたします。

本件につきましては、現在休止中の公民館緑分館の野外調理場につきまして、再開に向けて検討を行ってきたところ、検討状況を報

告させていただきます、協議を求めるものであります。

細部につきましては担当課長から説明いたしますので、よろしく御審議の上、御協議いただきますようお願い申し上げます。

鈴木公民館長 野外調理場につきましては、令和5年5月23日に開催された第6回教育委員会定例会で、公民館緑分館の宿泊事業及び野外調理場の検討状況について、として報告させていただいております。

小金井市公民館中長期計画では、公民館緑分館の委託に当たり、解決すべき課題として、野外調理場の存続に向けた検討が指摘されております。

また、令和5年4月18日に公民館運営審議会から答申された、小金井市行財政改革2025及び小金井市公民館中長期計画に基づく公民館緑分館の委託化についても、事業再開に向けた方向性を適切に示していただきたいとされておりました。

野外調理場につきましては、これまで、全体の意見交換会、近隣の皆さんの個別意見聴取、町会・自治会、利用団体からの意見聴取を行い、その結果を参考にし、安全性の確保や周辺環境への影響を最小限にとどめることとし、現在地での存続をする方向で検討を行ってまいりました。

協議第1号資料を御覧ください。

検討のまとめとして、野外調理場の再開に当たっての考え方として、安全性や周辺環境の影響への配慮をした必要な改修を行い、青少年センターから継承した青少年野外調理実習施設として、改めて位置づけを明確にし、現在地で存続するものとします。

利用ルールとして、野外調理場は、今お話しした青少年野外調理実習施設として、改めて続けるに当たり、野外調理場の利用目的を明確化します。

内容として、野外調理の初歩的技能の習得、利用者の相互理解、協力の大切さの学習、食や食材への感謝の気持ちの醸成、活動を通じた実体験の習得、思いやりの気持ちの醸成などを利用目的とします。

利用団体については、どのような団体がどのような活動で施設を使用することができるのかということの明記、1日に利用できる利用団体数、利用可能な日と時間、禁止事項を明確化しています。

3、スケジュールです。8月下旬に説明会の開催、利用者講習を

一定の時期に開催し、令和6年4月からの供用開始を目指して準備を進めてまいります。

説明につきましては以上となります。よろしく御協議をお願いいたします。

大熊教育長

事務局の説明が終わりました。本件は協議事項でございますが、何かこの場で御発言等がございますか。

緑分館の調理場については、これまでは、調理場があって、たくさんの人たちに使っていただきました。しかしながら、隣にあった梅林に住居が建つことになり、同じような使い方ができなくなりました。

それとともに、コロナということもあって、野外で調理をするということを禁止してきたところでございます。

今、コロナが収まってきて、どのように再開したらいいかということを検討してきた結果、やはり残したいことというのは、緑分館の伝統である宿泊施設の附帯設備として、野外調理場は存続していくべきであると。

しかし、その中で、近隣の人たちに迷惑をかけないことをしていないと難しいだろうということが一つ挙げられると思います。

これまでの使い方と同様な使い方はできないというふうに思いますが、緑分館の本来持っていた宿泊施設としての役割を一定、果たすためにも、少し厳しい決まりになるかと思いますが、存続できるようにしていきたいというふうに考えております。

皆さんの御意見はそれでよろしいでしょうか。

そのために、先ほど館長が言われたように、細かい決まりを決めて、しっかり守って、近隣の人たちと共存できる野外調理場にしてまいりたいというふうに思いますので、よろしくをお願いいたします。

よろしいですか。何かございますか。付け足しはありますか。

鈴木公民館長

特にございません。

大熊教育長

いいですか。部長もいいですか。

梅原生涯
学習部長

はい、大丈夫です。

大熊教育長 公民館緑分館の野外調理場について、今後もしっかりと取りまとめていただき、所要の事務作業を進めていきたいと思
います。
事務の内容につきましては、私、教育長に一任いただきたいと思います
ますが、御異議ございませんか。

(委員一同異議なしの声)

大熊教育長 異議なしと認めます。
以上で、協議第1号、公民館緑分館野外調理場の検討状況につ
いてを終了いたします。
次に、日程の第7、報告事項を議題といたします。順次、担当か
ら説明願います。
初めに、報告事項1、その他です。
学校教育部から報告事項があれば、発言願います。

大津学校
教育部長 特にございませ

大熊教育長 次に、生涯学習部から報告事項があれば、発言願います。お願
い

梅原生涯
学習部長 東センターの空調設備の故障につきまして、公民館より報告をさ
せていただきます。

鈴木公民館長 東センターの空調設備の故障に伴い、現在、東センターは休館と
させていた
させていただきます。
時系列で報告させていただきます。
まず、7月8日土曜日、午後、空調設備が停止いたしました。当
日は、東センターまつりを開催している状況でございました。
9日日曜日、職員の操作により、午前中、空調設備は稼働いた
しましたが、午後から再び停止をいたしました。
10日、11日、空調設備故障中でしたが、通常どおり開館して
おります。
12日水曜日ですが、業者対応により、図書館以外の部分は空調

設備を復旧できました。

復旧できなかった2階部分につきましては、スポットクーラーを13日に配置し、一定の対応を行ったところです。

19日水曜日、図書館は午前中のみの開館とし、午後は休館といたしました。図書館の午後休館につきましては、21日まで継続しております。

20日木曜日、改めて業者による確認作業を実施いたしました。同日20日に、21時過ぎに再び全館空調が停止となりました。

21日金曜日、22日から24日まで臨時休館ということを決定いたしました。

22日の予約団体に電話連絡を行い、また、22日から8月4日までの予約団体に86件となりましたが、一斉メールを送信し、また、ツイッター、ホームページ等で周知を図り、臨時休館ということをお知らせしております。

24日月曜日に、25日以降の臨時休館を決定させていただき、25日の利用団体に、予約団体に電話連絡を行いました。

また、25日から8月8日までの予約団体に一斉メールを送信し、また、ツイッター、市ホームページで周知を行っております。

現在、事業者と調整し、修繕の対応を準備中となっておりますが、8月1日火曜日に修繕作業を実施する予定となっております。

利用者の皆さんや関係者の皆さんに御迷惑、御不便をおかけして大変申し訳ございません。この場をお借りして謝罪をさせていただきます。

内田図書館長 今、公民館長から御報告させていただきまして、図書館東分室についても現在、臨時休館とさせていただいております。

こちらに関しては、あさって27日から、東分室近くの友愛会館2階におきまして臨時窓口を設けまして、予約本についての受け渡しをさせていただきたいと考えております。

受付時間に関しましては、27日は午前10時から12時、28日以降は午前9時から12時までとさせていただきます。

また、毎週月曜日、それから第1、第3火曜日、こちらは休館とさせていただきます。

大熊教育長 エアコンが止まったということに関して、すぐに代替の場所がで

きないかということも、検討させていただきました。近隣の学校としては、東小学校と東中学校があるのですが、東小学校は現在、改築が始まりまして、そのために、南校舎のエアコンが全部使えなくなっているということで、今まで使っていた学童が北校舎のほうに移動しており、空いている場所がありませんでした。

それから、東中学校のほうも、場所が提供できればよいと考えましたが、今、大事な三者面談をやっているということで、そういうときに外部の方が入ってくるのは、面談の性質上、あまりよろしくないということで、すぐの対応はできませんでした。

今後、緊急時のときは、また検討はしていきたいと思いますが、今のところそういう状況になっています。今、使える場所は、近所の公共施設としては友愛会館ということで、友愛会館は予約の図書を受け渡す場所として使わせていただいております。

できることは全て、今のところやっているというふうに御理解いただきたいと思います。

よろしいでしょうか。付け足しはありますか。

鈴木公民館長 特にございません。

大熊教育長 以上で、報告事項1を終了します。

次に、報告事項2、今後の日程についてですが、詳細については配付資料のとおりとなります。

日程については、何か質問等ございますか。

以上で報告事項を終了いたします。

本日の日程は全て終了いたしました。これをもちまして、令和5年第8回教育委員会定例会を閉会いたします。

長い間ありがとうございました。

閉会 午後5時45分